

令和3年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I	法人総括	3
II	高齢者福祉事業	
	[1] やすらぎの家 関連事業 総括	6
	1 特別養護老人ホームやすらぎの家	7
	2 短期入所生活介護やすらぎの家	15
	3 グループホームほのぼの家	16
	[2] うららか春陽荘 関連事業 総括	18
	1 特別養護老人ホームうららか春陽荘	19
	2 短期入所生活介護うららか春陽荘(ショートステイ)	21
	3 デイサービスセンターはるかぜ	22
	4 デイサービスセンターそよかぜ(認知症対応型)	23
	5 居宅介護支援事業所はるの	24
	6 高齢者住宅等安心確保事業 横浜ニュータウン	25
	7 うららかキッズガーデン(事業所内小規模保育施設)	25
	8 春陽荘各種委員会活動報告	27
	[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業	
	1 デイサービスセンターくつろぎの家	30
	2 デイサービスセンターわかくさの家(認知症対応型)	33
	3 小規模多機能型居宅介護わかくさ	35
	4 くつろぎの家 訪問入浴サービス	38
	5 高知市在宅介護支援センターあさくら	39
	6 高知市朝倉地域包括支援センター	41
	7 生活援助員派遣事業 若草	42
III	児童福祉事業	
	[1] うららか保育園 関連事業	
	1 うららか保育園	43
	2 特別保育事業	46
	3 放課後児童クラブ	48
	4 職員研修参加状況	49
IV	介護福祉士養成事業(公益事業)	
	[1] 平成福祉専門学校 関連事業	
	1 平成福祉専門学校	51
	2 平成福祉専門学校 介護実務者研修	54
	3 平成福祉専門学校 初任者研修(高校生就職支援事業)	54

I 法人総括

令和3年度を振り返ると、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで当たり前できていた活動が制限される中、引き続き感染予防・対策を中心に円滑な運営に努めてきた1年であった。

施設運営については、職員、ご利用者の感染発症及び事業所内クラスター予防対策を慎重に行い、協力医療機関のアドバイスも受け、「新型コロナウイルス感染防止について」のマニュアルを幾度となく改正し、感染防止対策の徹底を図り、新しい生活様式の実践に努めた。リモート面会の導入やオンライン会議・研修の参加などにも積極的に取り組んだ。また、発症予防効果があり、重症化リスクを下げる新型コロナウイルスワクチンの接種が進められ、ご利用者・職員共に3回目の接種を終え、約80%の接種率となった。

しかし、令和4年2月に高知市内での爆発的な新型コロナウイルス感染者の増加により、当法人でも職員・在宅サービスのご利用者・学生が感染者となったが、幸いにも感染拡大（クラスター）とならなかったことは、日頃からの感染予防対策を徹底し、節度ある行動を継続してきた職員の努力の結果と評価している。

今後も行政機関などにより発信された新型コロナウイルス感染予防対策などを指標に引き続き継続的な感染予防に努める。

法人管理体制については、新たな組織体制としての医療・福祉及び法人本部と各事業所との連携を図り、各事業所だけの課題ではなく、本部も共有し解決に努めた。また、医療・福祉との連携においては、新型コロナウイルス感染予防対策マニュアル作成のアドバイスや受診・PCR検査などの対応も円滑にできた。高齢部門では、受診や入院の円滑な対応ができた。

危機管理対策については、定期的な防災訓練の他、大型災害を視野に入れた防災マニュアルの見直しなど対策強化に努めなければいけなかったが、新型コロナウイルス感染症（クラスター）への危機管理を中心に進めた結果となった。しかしながら、危機管理体制の成果としては、医療機関、本部、各拠点間の連携が円滑にできたことは次年度へ繋げたい。

経営状況については、マスクなど衛生消耗品の本部一括調達や業務委託の一部見直しなどコストの削減に努めた。

各事業の稼働率について、コロナ禍ではあるが特別養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能型居宅介護の入所系は、年間平均96%を維持できた。在宅系のサービスについては、コロナ禍の厳しい状況下ではあったが、感染症対策の徹底や体調管理の継続など全体的には事業成果への努力に繋がった。

人材育成については、「高知県介護事業所認証評価制度」や働き方改革の取り組みとして、高知県の「ライフワークバランス・次世代育成支援部門、介護支援部門、女性活躍推進部門」の取得などを推進し、職員の育成・キャリアアップ体制、また、処遇改

善・特定処遇改善・処遇改善支援手当などの支給による処遇改善や職場環境、人材育成に努めた。

しかし、今年度は、コロナウイルス感染症の影響も含め、介護人材の離職が課題となった。法人では、職員の法人基準を整備し適正な人員配置に基づき、来年度も引き続き公募など様々な方法で人材確保に取り組み、施設運営向上に努める。

(1) 令和3年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況

理事会 定数9名(理事7名 監事2名)

開催年月日	出席 定数	決議事項
令和3年6月4日(金) 書面決議	9名	第1号議案 令和2年度事業報告(案)及び決算報告(案)について ・事業報告について ・決算報告について ・監事監査報告について 第2号議案 定款の一部改正について 第3号議案 理事候補者の選任について 第4号議案 評議員会開催について 第5号議案 社会福祉充実残額について
令和3年6月18日(金) 書面決議	9名	第1号議案 理事長及び業務執行理事について 第2号議案 評議員選任・解任委員の選任について
令和3年8月6日(金) 書面決議	9名	第1号議案 うららか春陽荘 新施設長候補者の選任について 第2号議案 新理事候補者の選任について 第3号議案 臨時評議員会の開催について
令和3年9月29日(水) 書面決議	9名	職務執行状況報告 第1号議案 令和3年度第1回補正予算案 第2号議案 諸規程一部変更について
令和3年12月15日(水)	9名	職務執行状況報告 第1号議案 令和3年第2回補正予算案 その他
令和4年3月9日(水) 書面決議	9名	第1号議案 令和3年第3回補正予算(案) 第2号議案 令和4年度事業計画(案) 第3号議案 令和4年度当初予算(案) 第4号議案 長い坂の会管理職人事(案)

評議員会 定数9名

開催年月日	出席 定数	決議事項
令和3年6月15日(水) 書面決議	9名	第1号議案 令和2年度事業報告(案)及び決算報告(案)について ・事業報告・決算報告・監事監査報告 第2号議案 理事・監事候補者選任について 第3号議案 社会福祉充実残額について

令和3年8月18日(水) 書面決議	9名	第1号議案 新理事候補者の選任について
----------------------	----	---------------------

監事監査

開催年月日	監査者	指導事項
令和3年5月28日(金)	梅田昭彦 中村文雄	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告等の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。 ・計算関係書類及び財産目録の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(2) 第三者委員活動報告

事業所名	委員	苦情相談件数	活動内容
特別養護老人ホーム やすらぎの家	門田権四郎 村岡叔世 川渕美恵子	0件	毎月、施設の状況説明(実績や行事等)の報告を行い、施設運営についての現状を報告する。施設内でのトラブル等があれば報告し必要な場合は第三者委員に報告する。
特別養護老人ホーム うららか春陽荘	島村長生 中山すみ恵	0件	毎月、施設の状況説明(実績や行事等)の報告を行い、施設運営についての現状を報告する。施設内でのトラブル等があれば報告し必要な場合は第三者委員に報告する。
うららか保育園	島村長生 上田和子 田村啓	0件	毎月、園の活動、園児状況や地域での活動等も報告を行う。園内でのトラブル等があれば報告し必要な場合は第三者委員に報告する。

Ⅱ 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

今年度も一年を通して新型コロナウイルスの感染対策に追われた年度となり、施設内の行事やイベントは全て縮小し、ご家族と接するイベントは実現できなかった。

国や県の感染状況も少し緩和したかと思えば、その反動で感染者が拡大し、その度に緊張感が高まり、ご利用者のみならず職員にとっても我慢が求められる一年となった。

しかしながら、ご利用者の感染者はなく職員の感染も1名のみでクラスターを起こすことなく一年を終えることが出来た。全職員が感染防止に向けて努力した結果でもあるが、ご家族が施設の感染対策を理解し協力をしていただいた。また協力医療機関の迅速な検査協力のおかげでまん延防止に努められた事はとても大きいと実感している。今後も引き続き新型コロナウイルス対策と付き合いながらの施設運営となるが、多方面から情報を取り入れながら、ご利用者とご家族が感染対策上でも関わる事が出来る取り組みの実現に向けて努力していきたい。

施設全体の課題としては、大きく分けて二つあり、一つ目は介護事故件数が多く誤薬と骨折が突出して多い一年となった。現在施設内に入ることが出来ないご家族に対して大きな不安材料を作ってしまったが、施設全体で職員周知を行い、指導研修を繰り返し実施した。幾度となく事案を検討し、職員自身も自分達のリスク回避への意識を強め、お互いを注意し合える職場環境を意識した取り組みを現在も継続中である。来年度はご利用者に安心して生活していただけるよう努力を続け、それが結果に表れるよう真摯に取り組むのみである。

二つ目として介護職員の離職が続き、人材確保が厳しい年であった。1年間で6名離職者が発生したが、離職理由としては他職種への転職が多かった。コロナ対策で行動制限等も続き、私生活まで拘束されることも現在の介護現場を取り巻く人材不足の理由の一つになっている。管理職以上は職員のストレスがたまらないよう適宜面談など意見を言える環境を作りながら、仕事のモチベーションが下がらないよう職員一人ひとりを気にかけていく。

入所稼働率については、平均で目標稼働率を達成できた。長年の課題でもあった他職種共同で情報を共有し早期にカンファレンス等で対応を統一することが定着してきた結果と受け止めている。また、協力医療機関での早期受診・対応により入院に至らず施設で生活出来ていることも大きな要因である。継続実施が当施設での大きな課題でもあるので、良いことは更に良くなるよう継続していくよう職員に周知していく。

ショートステイに関しては、新型コロナウイルスの感染対策により受入れの相談をせざるを得ない状況もあったが、ご利用者やご家族、担当居宅ケアマネージャーと慎重に話し合いながら、可能な限り対応に努めた。今後も外部事業所とも情報共有しながら感染対策には緊張感を持って対応継続していく。

1 特別養護老人ホームやすらぎの家

(1) 介護部門

今年度は、ご利用者が生活しやすい施設として取り組んできた。新型コロナウイルスが終息の方向に向かず、今年度も厳しい状況での一年であったが、感染対策を行いながら出来る活動を施設全体で検討し取り組んできた。新型コロナウイルスの感染対策を最優先としたため、外出、イベントなどを見送った形となったが、クラスターを防ぐことは出来た。職員も行動制限や体調管理に努め、ご家族には面会制限に協力していただいた。また、ご利用者の発熱時には協力医療機関が速やかに検査等協力していただけた。

職員研修に関しては、介護保険制度で定められた必須研修（感染予防・身体拘束廃止・虐待防止）は適宜新型コロナウイルス対策が先行したこともあったが、並行して開催することができた。例年と違い外部研修への参加はweb研修が多く、他施設との交流がなく、職員の学びを増やしご利用者ケアに活用することが十分にできなかった。

新人職員研修においては、「初期、中期、後期」の研修を他職種の項目も含め実施し専門職としての資質向上に努めた。

安全・衛生委員会は目的に添って毎月テーマを決めて検討し職員に発信した。内容を職員に発信することで職員の健康管理や働く環境整備に取り組んだ。

施設屋外でのボランティアの参加については、車椅子洗浄を屋外（施設敷地内）で実施することができご利用者に喜んでもらった。

① 1号館

昨年度に引き続き感染対策第一にご利用者の過ごしやすい環境作りに努めた。重度のご利用者が多い中、理学療法士とも協力して移乗方法や車椅子の検討、リフトなど福祉用具を使用することで、ご利用者にも介護者にも負担の少ないケアを提供することに務めた。

ショートステイのご利用者に関しては利用中少しでも安心して快適に過ごして頂けるように相談員と連携し、受け入れ時の環境整備の確認を行い安全なサービスを提供してきた。

② 2号館

ご利用者の過ごしやすい生活環境を整え、職員との情報交換を行い、ご利用者に合わせたライフスタイルを作ることで自立支援にも繋がった。職員間での意見交換や各委員を中心とした取り組みを実施し、専門職としての自覚や責任ができ始めている。また、ご利用者と職員の負担軽減のためにノーリフティングケアに取り組むため、対象者を決めていたが、安全に継続して使用方法を伝達する職員がおらず定着して実施することはできなかった。次年度の課題である。

③ 事故防止委員会

令和3年度、重大事故発生件数は23件あり。（骨折6件、誤薬14件、誤嚥2件、

創傷 1 件) その中で、誤薬 14 件と突出して多かった。要因分析した結果、全て防ぐ事が出来た事故であった。全職員でマニュアル内容を精査したが結論として、マニュアルに沿って服薬介助をするという職員の意識に課題がある事が明確になった。対照的に、日々出入りの多いショートステイは重大事故が発生しておらず、特に服薬介助時はマニュアルを守り確認を必ず行っている。職員の薬に対する意識と緊張感を持って対応していることが結果として現れた。骨折 6 件については、原因分析に、3 つの要因（本人要因、職員要因、環境要因）について広い視野で情報収集を行い同様の事故が発生しないように取り組んできた。しかし、結果に繋がっていない原因として、職員の気付きであるヒヤリハットの提出も少なく、認知症ご利用者の行動に関するリスクを予測した対応の振り替りも不足している事が上げられる。事故全般に対して、目の前の点でしか物事の把握ができていないので来年度はご利用者の状態をしっかりとアセスメントし、何が要因しているかを見極めケアにいかしていく。

④ 虐待防止委員会

目標を挙げ、計画に沿って実践する事が出来た。定例会、総会は 3 カ月に一度開催し、内部研修を 2 回行った。取り組み内容としては利用者ケアのイエローゾーンの改善として施設内で改善すべきケアを洗いだし一年間で改善する。また、月間目標（ご利用者への整容、言葉づかい、言葉がけ、）等を挙げその目標を意識し取り組んだ結果、継続して改善できた場面もあり有効性は大きいにあった。また、「いいねカード」の取組みにより職員間でお互いに良いところを認める事により仕事に対して前向きな気持ちになったという意見もあった。

内部研修については職員が集まる場面が少なく web 研修となった。今後は事例検討会を積極的に実施していきたい。施設全体として不適切なケア 1 件。ご利用者対応の意見は 2 件挙がっている。内容もふまえ、施設全体の事として真摯に受け止め、今後のケアに生かしていけるよう職員全体が考え実践して行こうと前向きに考える事ができた。

⑤ 身体拘束廃止委員会

身体拘束廃止に関する考え方の理解をする。例年同様一年間を通して身体拘束廃止の考え方について多職種で話し合い実践する取り組みを行った。その結果施設入所後は身体拘束に頼らない支援を提供する事が出来た。

(2) 介護支援専門員

- ・ 入退所の件数が多かったが、一連の業務が滞りなくできた。
- ・ 理学療法士のアドバイスをもとに、移乗動作・生活リハビリなど、その方の状態に応じたプランの作成ができた。
- ・ 面会ができていない家族に対して、詳しく状態説明を行った。
- ・ 栄養面・服薬等に関しては、個別に検討を行った。

① 良かった点

- ・ グループ職員に ADL 表・ケアプラン 5 表を書いてもらうことで、現場職員の意見をプランに反映できた。
- ・ 理学療法士からの照会内容が解りやすく、専門職からみた現状を家族に伝えることができた。
- ・ 担当者会の資料として医務室内での検討内容を事前資料として意見をもらうことによってご家族に説明する時の専門的な見解から説明が出来た。事前資料を確認する事で担当者会の日程調整がしやすかった。(1号館2号館同日でも行うことができた)
- ・ 管理栄養士は栄養面からの課題や状態変化(体重・摂取量)の意見をもらうことができた。
- ・ 精神疾患を持った利用者が増えたが、精神科医のサポートがあることで施設での共同生活を継続することができた。

② 反省点

- ・ 集まって会ができないことで、薬・食事・介助方法などの相談がすぐにできなかった。
- ・ 準備した資料をケアマネが読み上げるだけになることが多く、その場で意見が出るものが少なかった。
- ・ 入所前の聞き取りをリモートで行った場合、情報収集が難しいことがあった。
- ・ ケアマネジメント以外の業務に追われ、振り返りができなかった。

(3) 医務室

① 健康管理について

令和3年度入院は89件(令和2年度は110件)。

朝倉さわやかクリニックへ早目の受診、検査後施設で点滴施行するなど入院に至らず治癒したケースもあり、協力病院との連携が年間入院件数の減少につながっていると思われる。

毎日の全ご利用者の検温・体調確認は継続できている。

しかし以前からの課題である季節の変わり目の体調不良や脱水・尿路感染は減少しておらず、室温管理・水分摂取管理の啓発後、実施できているかの確認が不足していたことが浮き彫りとなった。啓発後の継続確認の徹底が次年度の課題である。

今年度は理学療法士が参入することにより、ポジショニング、生活リハ、転倒予防策などリハビリ専門分野からの意見を取り入れ実践することができ、新たな視点からご利用者の日常をサポートすることに繋がっている。

また、看護師全員が同じように病状管理対応ができる事を目指し、看護スタッフそれぞれが責任を持ち、他部署とのカンファレンスなどに参加しながら、やすらぎの家職員全体でご利用者を支える事の大切さを学んだ一年であった。

職員の健康管理については、安全管理委員会の中で、産業医の石元医師より、ストレスチェックの在り方や職員の食生活の見直しについてなどの勉強会などの提案もいただいた。やすらぎの家職員の健康診断結果も踏まえ、次年度は個人面談のみでなく、全体への研修を行っていく。

② 内服薬・外用薬の管理について

内服薬については外部薬局との連携を取り、細かい作業について業務改善を行うことができた。しかし、臨時薬のセッティングミスによる誤薬が起こっており、看護師のセッティング時の確認強化が課題となった。毎日の臨時薬セッティング後のダブルチェックを行うことによりセッティングミスの防止に努めている。又、現場での誤薬防止の為、看護師も声掛け・チェックできているかの確認を行い、看護・介護共に緊張感を持ち服薬介助を行う意識が高まってきている。

③ ご利用者さんとの日々の関わり、心のケアについて

新型コロナ対策継続の1年であり、家族面会、行事も自粛、縮小せざるを得ない状況であったが、現場では時間の許す限りご利用者との関わりを持つように努めた。感染対策強化も兼ねて、ご利用者の健康チェック、検温を行う為、現場に足を運ぶ機会も増やし、コミュニケーションを図った。問題行動のあるご利用者に関しては事例検討を行い、関わり方の工夫をした結果、良い方向につながったケースもあった。

④ 感染症対策委員会

ア. 新型コロナ感染対策

令和3年度発熱又は風邪症状で受診（入院になるケース含む）し、新型コロナ検査を施行したケース：82件。いずれも陰性であり、尿路感染・蜂窩織炎・肺炎などの呼吸器感染で入院・治療を要している。発熱者が発生した場合の初動として発熱者本人の隔離を行い、常勤医の指示に従い受診・検査にて陰性確認を行っていった。

今年度は感染委員看護師を中心に医務室発信で感染対策研修を行った。感染者が発生した時の清潔・不潔エリアをどう分けるか、どのタイミングで手洗い・消毒を行うかを質問形式でホワイトボードに絵を張り付けながら行い、分かりやすかったとの評価が聞かれた。

イ. 尿路感染症ゼロへの取り組み。

尿路感染症への取り組みとして、洗浄液を購入する前に、洗浄の必要性の理解を得る事、手技を確実にを行う事が優先と考えた。感染委員看護師発信で医務室看護師全員より陰部洗浄の現場指導を行い、委員会開催時にも啓発を行った。しかし、尿路感染症は33件と多く、減少させることはできなかった。尿路感染症の原因は陰部の清潔以外に、脱水予防、水分摂取量の確保、活動性を低下させないことが重要であり、トータル的にケアをしていくための働きかけをしていくことが次年度の課題である。

ウ. 蜂窩織炎ゼロへの取り組み

蜂窩織炎は減少しているものの、ゼロ件にはならなかった。同じご利用者が繰り返す特徴があり、トータル的なスキンケアが重要である。蜂窩織炎のリスクが高いご利用者の観察を行い、早期に対応できるよう、感染委員会を中心に予防の意識を高めていく。白癬症処置の集計は、ただ集計するだけになってしまっている為、数値化している目的は何か、改善の為に何をすべきかに焦点を当てて数字をみていく必要がある。次年度は、委員会開催時は改善していなければその理由を掘り下げて考える機会にしたい。

エ. 感染対策に対する現場教育

アで述べたように、全体対象の研修を行った。看護師全員が講師になることで、「説明ができ、質問にも答える準備」として各々が学習し、意識向上につながったと考える。

次年度も引き続き感染研修を全看護師が担当し、医務室全体のレベルアップと現場の意識改革を目指す。現場研修として、「尿路感染症について」・「感染予防の為にスキンケアの重要性について」を行っていく。又、感染委員自身も研鑽し、活動ができるよう、外部研修参加を計画する。

(4) 給食室

給食管理を委託業者と連携を取りながら行うことで利用者様の安定した生活の支援に努めた。また、毎月季節の行事食、誕生日会や新米祭りなどのグループイベントへの協力を行い、ご利用者の日常に食事という楽しみを感じてもらえるよう努めた。

実施日	実施内容	対 象
令和4年4月29日～5月5日	各祝日	ショートステイを含めた全利用者
令和3年5月9日	母の日	ショートステイを含めた全利用者
令和3年6月30日	開園記念日	ショートステイを含めた全利用者と希望職員
令和3年7月7日	七夕	ショートステイを含めた全利用者
令和3年9月21日	敬老の日	ショートステイを含めた全利用者
令和3年10月11日	2号館新米祭り	2号館全利用者
令和3年10月13日	さくら新米祭り	さくらグループ全利用者
令和3年10月23日	そよかぜ新米祭り	ショートステイを含めたそよかぜ利用者
令和3年11月3日	文化の日	ショートステイを含めた全利用者
令和3年12月22日	冬至	ショートステイを含めた全利用者
令和3年12月31日	大晦日	ショートステイを含めた全利用者
令和4年1月1～3日	正月料理	ショートステイを含めた全利用者
令和4年1月10日	成人の日	ショートステイを含めた全利用者
令和4年1月11日	鏡開き	ショートステイを含めた全利用者
令和4年2月3日	節分	ショートステイを含めた全利用者
令和4年2月14日	バレンタインデー	ショートステイを含めた全利用者
令和4年3月3日	ひな祭り	ショートステイを含めた全利用者
令和4年3月21日	春分の日	ショートステイを含めた全利用者

給食部会での多職種の意見や喫食調査の結果を踏まえ食事に対する満足度の向上や安全性の確保に向け、献立・形態・調理面において工夫を行った。

実施日（期間）	実施内容	対象・参加職種
令和3年11月1～15日	嗜好調査 (聞き取り方式)	全利用者
令和3年4月～令和4年3月	給食部会 ※毎月	CW、CM、NS、相談員、PT

栄養ケアマネジメントの実施、担当者会への参加により利用者の栄養改善・維持に努め、ご家族やご利用者のご希望に添った食事への思いを栄養ケア計画の中に入れるよう取り組んだ。

① 褥瘡予防委員会

褥瘡発生ゼロを重点目標として取り組んだ。結果としては褥瘡発生件数6件と目標達成には至らなかった。

上半期6件と褥瘡発生が多くあり、また同一ご利用者の再発事案もあった。上半期の状況を踏まえ下半期は剥離検討会を発生後早期に行うなど多職種連携を軸に取り組んだことで2件（うち1件は退院時の持ち込み）と発生防止につなげることができた。

多職種がそれぞれの専門性を褥瘡予防対策に繋げることと、多職種間の情報共有、協力体制向上が今後の課題である。

実施日	実施	内容
令和3年9月22日	定例会	意見交換 研修「褥瘡はなぜできるか」
令和3年10月8日	褥瘡委員会総会	
令和4年1月13日	定例会	意見交換 研修「褥瘡と栄養」
令和4年3月8日	定例会	意見交換 研修「褥瘡予防のスケールについて」 検討会「褥瘡予防の観点からのマットレス使用状況の確認とOHスケールの連動性について」
令和4年4月4日	褥瘡委員会総会	

(5) 事務部門

- ・ 施設の窓口として接遇に十分配慮できたが、迅速な対応に欠けた。
- ・ 感染症予防を強化するための衛生材料の適正在庫管理は徹底できた。
- ・ コロナ禍によるご家族様とのオンライン面会はスムーズに行えたが、利用する方はごく一部に限られたため、新たな方法の検討が必要と感じた。
- ・ 他部門との情報の共有及び業務の遂行は円滑に行えた。
- ・ 南海トラフ地震対策優良取組事業所5つ星認定を継続するための必要な教育・訓練の実施はほとんどできなかった。

(6) 生活相談員部門

ご利用者、ご家族が相談しやすい窓口として契約時から利用期間中、退所までの関わりをさせて頂く。その中でも、コロナウイルス感染症の流行によりご家族と共に活動す

る家族会、納涼祭をはじめ施設内その他の行事についてその都度検討してきたが結果中止する事となった。また、ご家族との面会についても法人の感染指標に基づき面会方法、人数制限などをさせていただく事となった。

入所希望者・待機者の相談窓口について、施設内見学には制限があり、施設入り口で料金を含めた施設の説明を行なった。入所待機されている方については、可能な限り待機場所へ調査に伺ってきたが、今年度は電話やwebを使用し聴き取りにより当施設での生活が可能かどうかの調査を行なった。

地域との関わりについては、コロナウイルス感染症により制限がかかる中その都度検討し、感染者の少なかった11月に朝倉防災フェスタに参加、12月には朝倉地区の小学生中学生と空き缶拾いに参加することが出来た。なかでも朝倉防災フェスタについては、地域の方にやすらぎの家を知って頂き、福祉避難所に指定されている事などをお伝えする事ができた。又、地域防災の取組みを知り地域との繋がり第一歩となった。今後も地域との繋がりとして継続し参加を予定している。

【やすらぎの家 入所者状況】

市町村	高知市	土佐市	須崎市	香南市	中芸広域	南国市	本山町	いの町	中土佐町	越知町	黒潮町	計
男	25	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	29
女	66	2	1	1	0	1	1	1	2	1	1	77
計	91	4	2	0	1	0	1	1	2	1	1	106

令和4年3月31日現在

【年齢別人数】

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～105	合計	最高	平均
男	0	6	12	11	0	29	94	81.3
女	0	7	12	41	17	77	101	87.4

令和4年3月31日現在

【入退所状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	1	1	1	2	2	1	3	2	1	0	0
	女	3	2	3	1	1	2	0	0	2	2	0	2
	計	3	3	4	2	3	4	1	3	4	3	0	2
退所者	男	1	1	2	1	1	2	1	2	1	1	0	0
	女	2	2	2	2	1	2	0	0	2	2	1	1
	計	3	3	4	3	2	4	1	2	3	3	1	1
月末人員	男	29	29	29	29	28	29	29	29	28	29	29	29
	女	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	76
	計	106	106	106	106	105	106	106	106	105	106	106	105

【サービス利用状況】

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5

4月	延べ	0	30	545	1,706	704
	実利用	0	1	20	60	25
5月	延べ	0	22	611	1,778	701
	実利用	0	1	21	60	24
6月	延べ	0	22	555	1849	680
	実利用	0	1	20	62	23
7月	延べ	0	31	612	1,839	729
	実利用	0	1	20	60	24
8月	延べ	0	0	651	1,829	732
	実利用	0	0	21	61	24
9月	延べ	0	0	630	1,721	708
	実利用	0	0	21	61	24
10月	延べ	0	0	628	1,845	736
	実利用	0	0	21	61	24
11月	延べ	0	0	609	1,712	745
	実利用	0	0	20	60	23
12月	延べ	0	0	599	1,812	749
	実利用	0	0	20	61	25
1月	延べ	0	0	626	1,799	739
	実利用	0	0	21	61	24
2月	延べ	0	0	570	1,676	999
	実利用	0	0	21	61	24
3月	延べ	0	0	607	1,775	730
	実利用	0	0	21	60	25

【ボランティア・施設来園者状況】

来園月日	団体（個人）	来園目的	人数
5、7、8、9、10、11月	美容室「ひまわり」	散髪	1名
12月9日	NTTOB	車椅子清掃	21名

【年間行事】

月 日	行 事 名
7月8日	防災訓練
7月28日	土用の丑の日
9月21日	敬老会
9月24日	慰霊祭
10月29日	新米祭り
12月27日	もちつき

※上記以外に、グループ毎に毎月の誕生日会、クリスマス会、喫茶等行なった。

新型コロナウイルス感染症対策の為、外部との交流のある行事は実施できなかった。

【研修参加状況】

施設内研修

月 日	研修名	内 容・担当者	対象職員
4月1日	訓示・事業計画	施設長より	全職員
4月22日	排泄ケア研修	ZOOM オンライン研修 ユニ・チャーム（株）	介護、看護師 ケアマネ、相談員

5月31日	重大事故をなくす	事故委員長より	全職員
6月22日～ 24日	感染症予防	食中毒（管理栄養士） 手指衛生（看護師）	全職員
6月28日～ 7月1日	理学療法士の役割	やすらぎの家での理学療法士の役割	全職員
7月19日	権利擁護	「不適切ケア」含む内容 （施設長）	全職員
12月7日～23日	感染予防	看護師	全職員
R4年1月17日 ～26日	事故防止	YouTube映像使用 薬ミスを防ぐ	全職員
1月26日～ 2月9日	身体拘束廃止虐待 防止	YouTube映像使用 精神科病院×新型コロナ	全職員
3月30日	防犯訓練	施設不審者侵入実践	勤務全職員

2 短期入所生活介護（ショートステイ）

1日でも長く在宅での生活が継続出来るように、居宅ケアマネージャーと連携をとり、生活環境が変わるショートステイでの環境整備に力を入れて取り組んだ。個別で自宅環境の写真をとり、個々の疾患を理解し、物品は何が必要かを書面にした。職員誰もが環境作りをしてもご利用者に適切な生活環境を提供できるよう介護職員と意識して取り組み、その結果重大事故は発生していない。

また、法人の特色を生かした医療連携については、ショートステイ利用者が発熱時でも協力医療機関が迅速に受診協力してくれ、必要な検査等行い感染症まん延防止の対策がスムーズに実施出来た。今後も地域の情報を確認すると共に、居宅ケアマネージャーや他事業所と情報交換を行い感染予防に努めていく。

【やすらぎの家短期入所サービス利用状況（介護保険請求者数による）】

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	延べ	0	0	11	16	104	121	13	265
	実利用	0	0	3	4	12	12	3	34
5月	延べ	0	0	30	17	89	126	8	270
	実利用	0	0	5	3	9	10	2	29
6月	延べ	0	0	21	16	73	147	8	265
	実利用	0	0	3	3	9	13	2	30
7月	延べ	0	0	9	38	121	118	8	294
	実利用	0	0	1	5	13	10	2	31
8月	延べ	0	0	13	43	129	112	5	302
	実利用	0	0	2	6	13	12	1	34
9月	延べ	0	0	36	56	144	78	5	319
	実利用	0	0	3	7	14	10	1	35
10月	延べ	0	0	30	34	166	98	7	335
	実利用	0	0	3	5	15	10	2	35
11月	延べ	0	0	15	52	156	108	9	340

	実利用	0	0	2	6	12	10	2	32
12月	延べ	0	0	32	39	155	86	25	337
	実利用	0	0	4	6	13	10	3	36
1月	延べ	0	0	15	45	143	101	0	304
	実利用	0	0	2	5	15	8	0	30
2月	延べ	0	0	16	35	68	86	13	218
	実利用	0	0	3	6	9	9	2	29
3月	延べ	0	0	18	38	100	97	10	263
	実利用	0	0	2	6	10	9	1	28
合計	延べ	0	0	228	391	1,348	1,181	101	3,512
	実利用	0	0	33	62	144	123	21	383

3 グループホームほのぼのの家

年度を通して新型コロナウイルス対策が必要となり、外出や交流行事は控え、誕生会や敬老会、クリスマス会、餅つき、防災訓練などの施設内での行事や取り組みが主となった。

研修への参加も最小限に留め感染防止に努めた。令和4年3月に職員の新型コロナウイルス感染があったが、ご利用者や他職員への感染なく乗り越えることができた。

今年度は協力医療機関との連携を密に行ったことで、ご利用者の健康管理を良好に行うことができたと評価している。ご利用者の生活が安定し、今年度は1名のご利用者が1回入院した(7月29日～8月12日)だけに留まった。来年度も継続して医療機関と連携をはかりご利用者が安心して生活できるよう努める。

【利用状況】

介護状態		入居者年齢別		日常生活自立度		認知症の程度	
要介護1	1名	80代	3名	A1	3名	Ⅱ	4名
要介護2	2名	90代	6名	A2	5名	Ⅲ	4名
要介護3	4名			B2	1名	Ⅳ	1名
要介護4	2名						

【日常生活動作状況】

	歩行	食事	入浴	着脱	排泄
自立	4名	5名	0名	3名	3名
一部介助	4名	2名	8名	5名	5名
全介助	1名	1名	1名	1名	1名

【入退所者】

	入居者	退所者
3月	1名	1名

【活動状況(外出、ボランティアの受け入れは中止)】

9月	敬老会
----	-----

10月	さんま大会
12月	餅つき、クリスマス会
防災訓練（机上訓練）	6月、12月
誕生会	4月（1名）、5月（1名）、10月（1名）、1月（4名）、3月（2名）

【内部研修状況】

研修名	開催日	場所	参加者
身体拘束、虐待防止委員会	毎月第一木曜日	ほのぼのの家食堂	夜勤者以外
感染対策委員会	毎月第一木曜日	ほのぼのの家食堂	夜勤者以外
事故防止検討委員会	毎月第一木曜日	ほのぼのの家食堂	夜勤者以外

【外部研修参加状況】

研修名	開催日	開催者	場所	参加者
自立を目指すケア研修会	6/11～12/10	高知市 高齢者支援課	高知市保健福祉センター	1名

[2] うららか春陽荘関連事業

昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により、基本方針に掲げていた地域の方々、ご利用者、ご家族と関わる機会を持つことはできず、日々、コロナ感染防止の対応に追われる1年であった。デイサービスでは、2月にご利用者が陽性となり、保健所はもとより協力医療機関である春野うららかクリニック、法人本部と連携し、ご利用者、職員の感染防止対応を行うと同時に事業の休止及び再開を職員が協力し合い迅速かつ的確に行った。その後、デイ職員および特養職員、ショート職員のコロナ感染が単発的に発生し、職員5名の感染、入所者11名が濃厚接触者となったが、その都度、感染防止対策を徹底し施設内感染拡大防止に努めた。

また、昨年夏より職員の退職が続き、人員減の体制のなか、新型コロナウイルスに続きノロウイルス感染が発生し、防護衣を着用し長期間に渡る就労は、肉体的にも精神的にも大きなストレスをもたらした。在宅に関する事業においても同様に、常にご利用者の体調変化に留意をし、感染リスクを念頭に置き感染防止対策を徹底して行った。施設で働く一員として高い意識を持ち業務に務めた職員に心から感謝したい。

今年度は、ご家族からご意見をいただくことがあった。いずれもご利用者、ご家族に対して配慮に欠けた言動があった。コロナ禍で、これまでのようにご利用者と会えないご家族の不安な心情や状況を理解した上での伝え方や対応が必要であった。直接伺えたご家族の声を職員と共有し、ご利用者とご家族を結ぶ懸け橋となるよう私たちの役割を常に考え、果たしていきたい。

(1) 事業運営

特養（入所）については、昨年度よりも、ご利用者の入院件数、入院日数、退所件数が少なかった、これについては、看護、介護、医療連携の成果がでた。ことから、安定的な運営だった。

しかし、在宅サービスについては、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響に左右され、月によって利用者数の増減があった。ショートステイ、デイサービスについては、運営を休止しながらの対応も行った。

(2) リスクマネジメント

- ・ コロナウイルス感染対策を職員へ周知徹底し、感染予防に努めた。
- ・ 特に感染対策では、連絡網システムを構築するため、公用携帯による Google アカウントを取得し、コロナ等感染に関する緊急時の連絡を迅速に伝達することができた。
- ・ 災害訓練については、地域共催はできなかったが消防署立ち合いのもと、訓練を行った。また防犯訓練については管轄する警察署に相談を行い、次年度の実施に繋げた。

(3) 医療連携

- ・ コロナ感染対応については、常に協力医療機関と連携し、迅速な対応ができた。

- ・今年度から、ご利用者の状況を毎日のミーティングで共有し、介護、看護の情報共有の連携を図ることで、より利用者対応の相談や助言、検討する機会が増え、介護、看護の連携に繋がった。

(4) 事故防止

- ・事故については、事業所内での対策等も行い、職員間での対応も実践された。しかし、職員の退職等で、見落としや周知不足等のミスから事故につながったことは、改善していく。

(5) 研修について

外部研修への参加等は難しく、ZOOMを使用したオンラインでの研修を行い、事業所内での伝達研修を行うようにした。今年度の介護基本研修やノーリフト研修等は実技技術研修なので、感染対策が優先となり、計画通りには至らなかった。

(6) 地域交流

- ・年2回行われる地域清掃活動に8名参加した。
- ・2年ぶりに地域住民の方と共に、感染対策を講じ、少人数、短時間で餅つきを行い、地域交流が行えた。
- ・介護実習生4名を、平成専門学校と連携し受け入れた。
- ・コロナ渦により長期に渡り面会できず、ご家族から心配が聞かれることがあり、毎月1回日々のご利用者の様子を撮影した写真をご家族に贈り、喜んでもらえた。

1 特別養護老人ホームうららか春陽荘

人材育成や、基本介護手法の評価基準を明確とする目標を掲げていたが、欠員や感染対策等もあり、介護基本研修については、積極的な取組はできなかった。施設全体が部署間を越えて協力しあったことが影響し入院数を減少することはできたが、実態に対しての学びは十分な分析には至っていない。今後は、体験してきた実態を安全に再現できるように、知識とそれらを共有する手法・ケアの向上に努めたい。

【活動実績 入所定員：80名 ※稼働率95%を目標値とした】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	93.40%	93.90%	96.00%	95.10%	93.30%	95.50%	96.00%	98.40%	98.10%	96.50%	97.80%	98.60%	96.05%
達成率	98.30%	98.80%	101.10%	100.10%	98.20%	100.50%	101.10%	103.60%	103.30%	101.60%	102.90%	103.80%	101.10%

【行事等】

4月	お花見ドライブ
5月	空調設備一斉清掃・防災訓練
6月	紫陽花鑑賞
7月	七夕

8月	うららか喫茶
9月	敬老会
10月	お芋ほり
11月	春野中央保育園来荘・庭の花植え
12月	お餅つき・作品展・防災訓練
2月	節分

【相談・意見】

- ・ ご利用者が入院になった際の看護師からの電話のやり取りがいつも面倒くさそうに対応され不愉快な思いをした。
- ・ ご利用者が入院になった際の看護師からの電話の対応した看護師の態度や言葉かけが冷たく感じた。衣類の事を聞こうとユニット職員に電話するがはっきりした返事が返ってこず以前も同じ事があり、改善が見られていない。
- ・ 病院への週1回のリハビリを希望した際に看護師から「コロナのワクチンを打っていないですよね。」と言われ、「予防接種を打っていない・がいけない事」かのような気持ちになった。

(対応) 早急にご家族へのお詫びと謝罪を行い、施設内での職員へ改善対策として、相手の立場になって対応するように周知徹底した。

- ・ コロナ感染者数が少なくなり、他の施設や病院が「面会」を緩和する中、当施設の面会制限に対して「厳しすぎるのではないか」と言う声が多くあった。

(対応) 法人全体での感染取組の説明を行い、ご理解していただく。

【外部研修】

開催月	内 容
7月	「高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修」
8月	「リスクマネジメント」(オンライン研修)
9月	「権利擁護」(オンライン研修)
10月	「生活相談員・介護支援専門員合同勉強会」(オンライン研修) 「第1回中央ブロック栄養士勉強会」(オンライン研修) 「安全運転管理者・副安全運転管理者」
11月	「高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修(リーダー向け)」WEB 「令和3年度高知県老人福祉施設協議会 機能訓練指導員・介護職員・看護職員合同研修」(オンライン研修) 「令和3年度 福祉職場の労務管理研修会」 「第78回全国老人福祉施設大会 山口大会」(オンライン研修)
12月	「高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修(リーダー向け)」WEB
2月	「令和4年度社会福祉施設総合保険制度説明会」(オンライン研修)

【内部研修】

開催月	内 容
4月	新年度式
5月	「季節性食中毒」①厚生労働省 家庭でできる食中毒予防6つのポイント ②そうだったのか!感染対策(手洗い)
6月	「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」①介護職員必見!不適切ケア~自然にこ

	んなことしていませんか？②第2回身体拘束～代表的な身体拘束
7、8月	褥瘡の基礎、仰臥位・座位の褥瘡ケア研修①足部・背部の褥瘡ケア
9月	事故・リスクマネジメント研修

2 短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

ご利用者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続して行えるように、コロナ禍の中、可能な限り、屋内、屋外において散歩等を交えながら活動量を増やす取り組みは出来た。

感染症対策としてはショートステイ利用前にあたってのご家族や居宅介護支援事業所のケアマネージャーや他事業所との手紙や電話等を用いての情報交換等を行い、安心して利用して頂くよう努めた。またご利用者においても入居前の検温(体調の確認)、消毒等の協力も頂けた。職員もマスク着用(二重)、検温、消毒については周知徹底する事が出来た。

【活動実績 利用定員：20名（4/27～5/5 コロナ対策にて入所制限あり・2/7～定員10名）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	15.6	15.6	16.2	17.8	17.6	18.0	18.4	17.2	18.3	18.5	8.93	9.39	16.0
稼働率	77.8%	78.0%	80.9%	88.9%	87.7%	90.0%	92.1%	86.2%	91.3%	92.6%	89.3%	98.9%	79.8%

【外部研修】

月	開催地	研修名	研修内容	参加人数
7月	WEB研修	高知県、障害者虐待防止・権利擁護研修	権利擁護の基礎知識	1名
8月	WEB研修	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの基本 ・予防するための能力の向上 ・事故後の適切な対応 	1名
10月	WEB研修	生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・各種加算取得状況について ・感染症や災害時の業務継続に向けた取り組みについて ・コロナ禍の現状・各施設の近況について ・その他、意見交換 	1名

【内部研修】

開催月	内 容
4月	新年度式
5月	「季節性食中毒」①厚生労働省 家庭でできる食中毒予防6つのポイント ① そうだったのか！感染対策（手洗い）
6月	「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」①介護職員必見！不適切ケア～自然にこんなことしていませんか？②第2回身体拘束～代表的な身体拘束
7、8月	褥瘡の基礎、仰臥位・座位の褥瘡ケア研修①足部・背部の褥瘡ケア
9月	事故・リスクマネジメント研修

3 デイサービスセンターはるかぜ

活動目的別の部屋を活用し、体操や歩行等の生活動作訓練、創作や脳トレ、園芸等の個別活動、季節の行事等様々な取り組みを感染予防に配慮しながら、継続して行うことができた。しかし、楽しみにしていた保育園や幼稚園との交流が中止となり、活動意欲向上に繋がりにくい結果となった。

接遇チェックシートを利用して自己評価、個別面談を定期的に行うことで、接遇に対する意識付けができたと感じるが、業務が忙しくなると言葉遣いや態度が不適切な場合もあった。今後のご利用者、ご家族との信頼関係を築くため、接遇を意識した対応を継続していく。

介護事故については、ご利用者の行動予測や環境整備が不十分であった事が原因となる転倒事故、職員の確認不足による送迎車ドアでの指挟み込み事故、身体状況の把握不足による表皮剥離が発生し、重大事故となった。事故を未然に防ぐには、ご利用者の状態観察を行い、気付きや環境整備の徹底等、リスクマネジメント能力の向上と職員間の情報共有、連携に努めた。今後も継続した対応を行う。

運営に関しては、1年を通して目標を達成することができなかった。居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者獲得に努めたが、7月より日曜日休業に伴い新規利用者数が半減、2月コロナ陽性者あり営業休止したことにより、再開後も利用控えや他事業所への移行があり稼働率低下となった。今後、コロナ禍における新規利用者獲得が課題となった。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	24.0	23.5	24.5	23.0	23.7	23.1	23.1	23.9	22.4	21.8	15.6	20.7	22.4
稼働率	80.1%	78.5%	81.7%	76.7%	79.1%	76.9%	76.9%	79.6%	74.6%	72.6%	51.6%	69.0%	74.8%
達成率	94.3%	92.4%	96.1%	90.2%	93.1%	90.5%	90.5%	93.8%	87.7%	85.4%	61.1%	81.2%	88.0%

【外部研修】

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
7/15	オンライン	高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修	高知県社会福祉協議会	1名
8/19	オンライン	介護保険事業者研修会	高知市介護保険課	1名
2/25	オンライン	LIFE研修会	高知県老人福祉施設協議会	1名

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
5月	感染症予防（季節性食中毒と手指消毒）
6月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
7月	褥瘡予防
9月	介護事故防止
11月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
12月	感染症予防（コロナ発生時の対応）
3月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
3月	介護事故防止

【事故件数】

転倒	3件（内1件左脛骨近位端骨折）
指挟み込み	1件（第4指末節骨骨折）
表皮剥離	3件

4 デイサービスセンターそよかぜ（認知症対応型）

より専門性の高い認知症ケアを提供することを目的に事業所内で定期的に勉強会を実施した。認知症の症状を理解することだけでなく、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り、職員間で情報共有を行い、根拠に基づいた統一したケアを行うことで周辺症状の軽減に繋がったケースもあり、ご利用者が安心して過ごすことができる場所に近づいたと感じる。また、季節行事を毎月開催することで、ご利用者の楽しみ、職員の喜びにも繋がった。

そして、送迎時にご家族とのコミュニケーションを積極的にとるように心掛け、ご自宅での様子を伝えていただいたり、連絡帳の返信が増えるなど、成果が見られた。今後もご家族を含めた支援を継続していく。

運営に関しては、居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者獲得に努めた。昨年度と同数程度の新規利用者があったが、1年を通して施設入所されたご利用者が多かったこと、それに加え2月コロナ感染者の対応にあたり営業休止したことにより、稼働率低下となった。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	7.2	6.8	7.1	7.0	6.1	5.8	6.5	6.5	7.0	6.4	4.2	5.5	6.3
稼働率	60.3%	56.5%	58.9%	58.0%	54.0%	48.1%	54.5%	53.9%	58.3%	53.2%	34.7%	45.7%	53.0%
達成率	90.4%	84.7%	88.3%	87.0%	76.4%	72.1%	81.7%	80.8%	87.5%	79.8%	52.1%	68.5%	79.1%

【外部研修】

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
7/16、 1/14	オンライン	高知県高齢者、障害者 虐待防止・権利擁護研修	高知県社会福祉協議会	2名

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	事業計画
5月	感染症予防（季節性食中毒と手指消毒）
6月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
7月	褥瘡予防
9月	介護事故防止
11月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
12月	感染症予防（コロナ発生時の対応）
3月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
3月	介護事故防止

【勉強会】

4月	認知症の人の理解と対応
5月	認知症の周辺症状と対応
6月	認知症の人のコミュニケーション（ユマニチュードの理解）
7月	事例検討①
10月	認知症の人の家族への支援
11月	認知症ケアの倫理と権利擁護（パーソン・センタードケアの理解）
1月	認知症の人のアセスメント
2月	認知症の薬物療法と非薬物療法
3月	認知症ケアの多職種協働と地域連携

5 居宅介護支援事業所はるの

令和3年度も昨年度以上に新型コロナウイルス対策が求められ広報や営業活動に制限のある1年となった。事業計画に位置付けていた居宅介護支援事業所が中心となって地域の相談窓口と認知される施設となる取り組みも、コロナ感染症の影響により十分行うことはできなかった。

平成31年度に開催した介護者が交流する機会は令和2年度に続いて令和3年度も設けることができなかった。昨年同様、ZOOMを使用した研修、会議への参加を行い、介護支援専門員の資質向上に努めた。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	110人	114人	107人	109人	106人	104人	102人	101人	97人	96人	95人	98人
	91.6%	95.0%	89.1%	90.8%	88.3%	86.6%	85.0%	84.1%	80.8%	80.0%	79.1%	81.6%
支援	29人	29人	30人	32人	29人	28人	26人	29人	30人	30人	30人	29人
	107.4%	107.4%	111.1%	118.5%	107.4%	103.7%	96.2%	107.4%	111.1%	111.1%	111.1%	107.4%

6 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

高齢者の方も増えてきており、入退院をされる方々が増えてきた。気候や新型コロナウイルス感染状況等も確認しながら入居者に注意喚起する事が出来た。相談者を居宅介護支援事業所やその他の関係機関に繋ぐ事が出来た。4月、5月 11月～1月はいきいき百歳体操を行う事が出来た。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活指導	実	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	延	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
安否確認	実	24	24	25	26	27	27	25	25	25	26	26	26	306
	延	312	255	261	257	309	295	282	266	303	252	206	184	3,182
家事援助	実	9	12	9	12	10	13	10	11	10	10	9	14	129
	延	68	64	66	74	61	85	76	67	69	51	33	49	763
緊急時 対応	実	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
	延	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
関係機関 との連絡	実	1	1	0	4	1	0	0	0	1	0	0	0	8
	延	1	1	0	4	1	0	0	0	1	0	0	0	8
その他	実	4	4	0	0	0	0	6	6	6	6	0	0	32
	延	15	16	0	0	0	0	21	21	18	10	0	0	101

7 うららかキッズガーデン

4月当初2名からのスタートとなり、うららか保育園と連携を図り、営業活動や広報活動に向けての取り組みを行った。配布したポスターを見ての一時保育利用申し込みが多数あった。次年度も定数確保にむけ継続して活動をしていく。保護者とは情報交換を積極的に行い、生活習慣や発育について個々に応じた支援を行う事ができた。事業所特性でもある高齢者との交流は昨年続き新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

- ① 個々の健康状態や子どもたちの様子を見て、日々の計画や保育士の配置を変更するなど柔軟な保育を行った。
- ② 保護者とは送迎時の会話や連絡帳を通して、園での様子を細かく伝え育児相談を受けることも多く保育士として専門性を生かした助言や個々に応じた支援を行う事が出来た。
- ③ 職員間では、月1回の職員会議 毎日のミーティング伝言ノートを活用して共通理解を図った。
- ④ 令和3年度意見受付対応件数 1件
 - ・意見対応
 - 保護者より保育士の子どもの関わりについて意見があった。

(対応) 子どもとの関わり方という初歩的な意見の為、再度全職員で確認し合い周知するとともに常に子どもと向き合った保育ができるように保育士の意識向上を図っていく事と親の立場に立って行動する事を話し合う。

保護者には不愉快な思いや心配をかけたこととお詫びし、今後全職員で声を掛け合って今回のような事がないように指導していく事を伝え了解を頂いた。

【入所児童数 (定員 11名)】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員	0歳												
	1歳	1	1	1	1								
	2歳												
地域	0歳		1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	4
	1歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2歳				1	1	1						
合計		2	3	3	4	3	3	2	2	4	4	5	5

【研修参加状況】

月	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4月	高知市	第1回乳児保育研修	乳児の保育・保健・栄養の基礎知識の習得	高知市保育幼稚園課	1
6月	高知市	プール管理講習会	プールの安全と衛生管理	高知市保育幼稚園課	1
6月	高知市	食育研修会	給食における衛生管理 備蓄の必要性	高知市保育幼稚園課	1
9月	高知市	乳児保育研修	保育所の役割について	高知市保育幼稚園課	1
10月	高知市	乳児保育研修 食育	乳児期における口の健康について	高知市保育幼稚園課	1
11月	高知市	アレルギー対応研修	アレルギーの基礎知識と対応方法	高知市保育幼稚園課	1
2月	高知市	南海トラフ巨大地震対策研修会	巨大地震に備えるために	高知県教育委員会	1
3月	高知市	給食管理システムについて	給食に関するオンライン説明会	高知市保育幼稚園課	1

・高知県キャリアアップ研修

食育・アレルギー対応研修	1名	保護者支援・子育て支援	1名
保健衛生・安全対策研修	1名	マネジメント	1名
障害児保育研修	1名		

8 各種委員会活動

(1) 事故防止委員会

事故件数としては前年度と比較し減少しているが、ヒューマンエラーは増加しており、頻回なヒヤリの末に事故に至ったケースや行事参加時に起きたケースもある。

安心して生活できる環境整備や認知症ケアを向上させる目標は、今後も課題を残す形で浮き彫りとなった。しかし、書式や記録を共有することで、新たな事故を未然に防ぐ取り組みも始められたことから、今後はそれらを生かしつつ残された課題を改善へと繋げたい。

【介護事故件数】

	事故件数	ヒヤリハット	ヒヤリカード
特養	63	11	184
ショート	6		
デイ	7	3	1

【重大事故件数】 ※行政報告対象

	重大事故	転倒		離設	誤薬	異食
		骨折	受診を要する状態			
特養	15	6	7		6	1
ショート	6	1	3		3	
デイ	3	2	3			

(2) 感染予防対策委員会

活動内容：毎月 感染委員会の開催

4月 令和年度 委員会活動計画立案

5月 新型コロナウイルス感染状況把握と6月研修内容確認

6月 新型コロナウイルス感染状況把握と感染対策資料配布
施設内研修（職員全員）「季節性食中毒と手指消毒研修」

8月 6月施設内研修結果報告

9月 コロナウイルス感染（職員）時の連絡対応検討と確認

11月 「高知県労協協会研修」内容報告と周知研修

12月 長い坂の会でのコロナ感染対応表確認

1月 施設内でのコロナ陽性者と濃厚接触者認定時のフローチャート確認

2月 体調不良時（コロナ以外）連絡ルート確認と周知

3月 2/15 ノロ感染者発生に対しての、感染対応への課題

研修実施：①「季節性食中毒と手指消毒研修」

動画・Google ホーム使用での研修

②「高知県老協協会研修報告書の周知研修」

感染委員より一般職員へ伝達研修を行う

取り組み：新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染対策決定事項の迅速な伝達と周知の確認

(3) 身体拘束・虐待防止委員会

身体拘束・虐待防止委員会の指針、要綱、マニュアルの見直し、改正を行い周知する。年2回の内部研修では、「動画」や「資料配布」による研修を行い、高齢者の「権利擁護」について重点的に学習、不適切や、虐待に繋がらないための意識向上に努めた。

3月の不適切ケアについては、施設長の指示のもとコアメンバーを徴収し、今後の対策について検討、実施。定期的に評価を行い、他職種も含め統一した対応を行えるよう努めた。

コロナ禍で施設での生活の様子が見えない中、家族様に安心していただけるよう日頃の様子などを施設からも発信し、よりいっそう信頼関係が結べるようにする必要があると考える。また、職員に対しても過度のストレスや負荷がかからないように職場環境の改善が重要な課題である。

月	内 容
4月	高齢者虐待防止の推進についての説明（介護保険改定に伴う） 身体拘束廃止・虐待防止指針、要綱、マニュアルの確認 「気づき」の大切さについて事例を挙げて職員全員に周知する。
5月	6月実施予定研修内容について検討する。
6月	6月の研修について最終確認行い実施。 ①「介護職員必見！」不適切ケア～自然にこんなことしていませんか？ ②「第2階身体拘束～代表的な身体拘束～」 (パソコン内で研修、報告書も記入する形)。
7月	研修結果、報告書の意見・感想の報告。 身体拘束虐待防止に関する対策を検討（介護職員に周知） ※夜間、寝ないからとの理由でホールにずっと座ってもらっているケースがあるが、理由によっては虐待にあたるということを周知、職員の意識づけを行う。
8月	「言葉がけ、対応が勉強不足、良い対応とは言えない。」という在宅サービスでの経験がある現場職員からの指摘がある。これをきっかけに今一度、日頃のケアについて振り返り見直しができるように周知。
9月	※職員の介助、言葉使いが不適切だったケース在り、詳細の報告行い、ユニット会で現場の職員に内容のみを報告、「誰にでも起きること」として注意喚起を行う。
10月	各ユニットや部署で「身体拘束・虐待防止」に関連した研修を考案、実施する。
11月	12月開催予定の内部研修の内容について検討。
12月	10月に各自で取り組んだ研修内容を参考に、今年度2回目の内部研修の資料作成、施設全職員に配布、報告書を提出してもらう。 職員が気持ちよく仕事ができるように、また、仲間意識を高める事を目的として「いいとこミッケカード」の再開について話し合う。
1月	「いいとこミッケカード」再開。
2月	委員会開催なし
3月	内部研修『虐待防止・権利擁護研修』を実施。

	不適切ケア発生。施設長によりアメンバー収集。会議を行う。
--	------------------------------

(4) 褥瘡予防委員会

ご利用者の予防ケアに取り組んだ結果、褥瘡者はなし。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡者	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

(5) 災害対策委員会

今年度も災害訓練は地域共催ができなかったが、災害対策委員が中心となり避難所開設訓練を行い、災害時における避難所としての課題を改めて確認することができた。

(6) 美化委員会

今年度はコロナ禍において、委員、他ユニット職員が集まったの活動が困難であった。年末大掃除等の大型活動が行えず、ユニット清掃の活動のみになってしまったが、各ユニット環境美化委員主導での積極的なユニット内清掃活動に取り組めた。

(7) 安全衛生委員会

職場の安全衛生や改善といった事項にとらわれすぎず、健康管理や生活習慣、メンタルヘルスなど健康を保つことで、業務の効率の低下、業務中の事故などの予防に努め、職員の興味や関心のあるテーマを選定し、自然災害や人権（LGBT）等について学びを深めた。労働災害は、0件であった。

[3]在宅介護センターわかくさ関連事業

1 デイサービスセンターくつろぎの家

(1) サービス

全体では日中にラジオ体操、かみかみ 100 歳体操、転倒予防体操、リズム体操等のオリジナル体操を短時間で無理なく行うことで、身体機能維持・向上に努めた。レクリエーションとしてクイズ等を行い、ご利用者同士で話し合い考え、交流を図る場の提供も行った。個々では、生活リハビリとして洗濯物たたみやチラシでのゴミ箱作り、食器洗い等を行い手指の訓練としてだけではなく、デイサービスでのご自身の役割として取り組まれる方もおり、意欲向上に繋がったのではないかと考えられる。行事については感染防止対策の上で、職員で話し合い、季節に合わせた行事を開催し、楽しんでいただくことが出来た。その中でも、バイキング等毎月行うものに関しては、ご利用者からアンケートをとり、メニューを決定する等、楽しみを持ち、来所していただくシステムを作っていくことが出来た。しかし、全体としても個々としても、計画性のあるものやニーズと関連づけたサービスの提供が出来ていない、職員で提供するサービスの統一が出来ていないという問題もある。3 月よりご利用者ごとに担当職員を配置し、評価を行っていくことで提供するサービスをニーズ等から導きだした根拠のあるものにしていくよう努めたが、未だ定着はしていない。計画性についても、前月に次月分の任務を配布し、担当者に全体レクリエーションの計画性を持ってもらう取り組みは行ったが、当日に任務が交代してしまうこともあり、任務に対し責任を持っていないことから良いサービス提供に繋がっていない。職員同士で話し合い、サービスを統一するシステムも案を出し合っているが、形になっているものはない。

ご利用者の心身の状態や体調等の変化を本人の表情や会話、ご家族へ送迎の際に「何か変わったことはありませんか」と伺うことで早めに察知し、他職員にも周知することで日中注意することが出来た。帰りの送迎の際に日中のご利用者の様子をご家族へ細かく伝えることでご自宅での困りごとや新たなニーズを発見することもあった。今後はそのニーズ等について、職員やケアマネージャーへ報告連絡をすることで、より深くケアし、くつろぎの家がご利用者もご家族にとっても、安心できる、楽しいデイサービスであるという認識を持っていただけるように働きかけていく必要がある。ご家族の体調についても一言お声かけし、ご家族の健康状態を労り、感謝の言葉をいただくこともあった。高齢のご家族もいらっしゃるため、続けて行っていく、ご利用者の周りの環境にも

配慮したケアを行っていかねばならない。

腰痛を含め職員の体調不良があり、予定よりも少ない人数で業務を行っていくことも多く、精一杯行ってもご利用者に還元出来ていないのでは・・・という声や、改善点が思いついても形にしていける時間がない。という声があり、貴重なアイデアが反映されないため、モチベーションが上がりにくく、再び体調不良へ繋がるという悪循環になってしまっている。体調不良のなか業務を行っていると、注意も散漫になり事故へと繋がる。職員が自身の身体変化を早めに認識し、対策することが大切である。また、職員同士密にコミュニケーションを取り合うこと、互いの変化に気づき、補い合うことや良いと思ったポイントを言葉にして感謝し合うことで、個々に自信を持ち、力を発揮出来るような関係性を築いていかねばならない。

(2) 運営

1日平均利用者数の落ち込みが進み、12月には20名を下回った。入院者等長期利用していないご利用者を含めての利用予定者数としていたため、入院者が多数出始めた際に、対策をしていなかったことや、新規のご利用者受け入れがほとんどなかったことが原因と考えられる。今後は長期利用がない際に、ご家族やケアマネージャーへの連絡を密に行っていくことや、どのように対応していくのか職員同士で早めに話し合い、計画をたて、早期に対策していくことが重要である。新規受け入れについては、新型コロナウイルス感染対策のため見学等を中止している代わりに、どのようなデイサービスか、来所されたことがない方でも雰囲気を感じる事が出来るよう、様々なツールで発信していく必要がある。登録者数が減少したことで連絡をとる居宅介護支援事業所も少なくなっている。以前ご利用者を紹介していただいた事業所を含め、新たに連絡をし、信頼関係を築いていかねばならない。

また、新型コロナウイルス感染者拡大を防ぐため、営業を停止した2月は、最も低い平均利用者数となっている。幸い事業所内での感染拡大を防ぐことが出来、ご家族・ケアマネージャーへ現状や体調確認の連絡を細やかに行うことで、ご利用者に安心して利用再開をしていただくことが出来た。今後もさらなる感染予防対策を行うことで、引き続き安心して利用していただく環境を整えていく必要がある。

【要介護利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	20	20	18	19	17	17	15	16	17	18	15	15	207
要介護2	13	16	16	16	17	115	15	14	13	13	16	16	280
要介護3	12	11	9	8	8	7	8	7	7	7	8	7	99
要介護4	14	14	13	13	13	12	13	11	10	8	8	9	138
要介護5	9	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	92
合計	68	69	64	64	63	159	59	55	54	53	54	54	816
1日平均	24.3	24.3	23.9	21.7	21.8	22.4	22.3	20.7	18.7	18.7	14.6	18.5	21
平均介護度	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.5	2.49

【総合事業延利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	22
合計	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	22
1日平均	0.53	0.52	0.47	0.43	0.45	0.53	0.45	0.43	0.6	0.48	0.42	0.83	0.51

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	リモート勉強会「介護保険制度について」	
5月	リモート勉強会「包括支援センターについて」	
6月	リモート勉強会「食中毒・グループワーク（感染症）」	
7月	リモート勉強会「コロナ禍でも安全に行えるレクリエーションについて」	
8月	勉強会（感染予防にて中止）	
9月	勉強会（感染予防にて中止）	
10月	リモート勉強会「季節感染症」	老施協研修（WEB講座1名）
11月	リモート勉強会「産業医について」	
12月	リモート伝達研修 リモート勉強会「ハラスメントについて」	

1月	リモート伝達研修 リモート勉強会「事例検討会」	
2月	勉強会（感染予防にて中止）	社会福祉保健説明会（WEB 講座 1 名）
3月	勉強会（感染予防にて中止）	

【行事等】

4月	誕生日会
5月	誕生日会・母の日
6月	誕生日会・父の日
7月	誕生日会
8月	誕生日会・夏祭り
9月	誕生日会・敬老会
10月	誕生日会・焼き芋
11月	誕生日会・運動会
12月	誕生日会・年忘れ会
1月	誕生日会・年始プレゼント
2月	誕生日会・節分
3月	誕生日会・お花見

2 デイサービスセンターわかくさの家（認知症対応型）

(1) サービス

人事異動等で職員の顔触れが変わるも、毎日、和み・楽しみ・笑いのある家庭的な雰囲気作りを心掛け、ゆったり関わることで馴染みの関係を築くことができました。

新型コロナウイルス感染拡大で、色々なことが制限された年でもあり、そんなコロナ禍でも安心・安全に楽しんでいただける様、感染対策を講じながら工夫を重ね行事や四季折々の創作活動の充実に努めた。

また、わかくさの家の基本方針でもある、住み慣れた場所でご本人らしい生活が継続できる様、日々の関りの中での変化は随時検討し、状態が変わっていく中で一人一人の今の状態に合わせた声掛けや介助、環境整備を心掛けた。ご家族には、送迎時に変わったことや日々の様子を必ずお伝えし、情報共有を行い、悩み事や相談事も話していただけることがあった。今後もご家族の心に寄り添える様、ご家族の様子も気にかけていき、たわいもない会話を大切にし、心のケアに努めていきたい。

職員研修では、コロナ禍で県内外の研修中止、センター内での勉強会もいくつか中止

となったが開催できた内容として、感染症のシミュレーションやコロナ禍でも安全に行えるレクリエーションの検討を行い、今後に活かせる内容であった。

(2) 運営

コロナ禍で利用を控えたい方や、センター内でのコロナ陽性者発生に伴い3日間のサービス中止で稼働率が低下する。空き曜日を最小限に留める様、振替利用や自居宅・外部居宅への連絡が積極的に行えなかったことが課題である。

次年度は、空き状況を積極的に伝えていき、ケアマネ・ご家族とも相談しながら振替利用、曜日追加を働きかけ稼働率の維持・向上に努める。加えて、ブログ更新等の広報活動にも力を入れ、わかくさの家の日常を発信していき、新規依頼に繋げていきたい。

【行事等】

4月	誕生日会・クッキング・創作
5月	誕生日会・クッキング・創作
6月	クッキング・創作
7月	誕生日会・クッキング・創作
8月	クッキング・創作
9月	誕生日会・クッキング・創作・敬老会
10月	誕生日会・クッキング・創作・ミニ運動会
11月	誕生日会・クッキング・創作・介護の日
12月	誕生日会・クッキング・創作・クリスマス会
1月	誕生日会・クッキング・創作・お正月行事
2月	誕生日会・クッキング・創作
3月	誕生日会・クッキング・創作・年度末プレゼント

【要介護利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	21	21	20	20	22	21	17	23	23	24	24	31	267
要介護2	67	68	61	62	57	60	56	61	32	41	41	38	644
要介護3	107	96	98	86	61	65	78	83	102	88	57	80	1,001
要介護4	29	27	28	28	29	28	27	29	30	28	21	24	346
要介護5	21	20	21	21	20	22	21	21	23	21	18	24	253
合計	245	232	228	217	176	196	199	217	210	202	161	197	2,511
1日平均	11.1	11.1	10.4	9.9	8.7	8.9	9.5	9.9	9.4	9.7	8.1	9.3	9.67
平均介護度	2.7	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8	2.7	2.7	2.8	2.5	2.7	2.6	2.7

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	リモート勉強会「介護保険制度について」	
5月	リモート勉強会 「包括支援センターについて」	
6月	リモート勉強会 「食中毒・グループワーク（感染症）」	
7月	リモート勉強会 「コロナ禍でも安全に行えるレクリエーション」	
8月	勉強会（感染予防にて中止）	
9月	勉強会（感染予防にて中止）	
10月	リモート勉強会「季節感染症」	老施協研修（WEB 講座 1名）
11月	リモート勉強会「産業医について」	
12月	リモート伝達研修 リモート勉強会「ハラスメントについて」	
1月	リモート伝達研修 リモート勉強会「事例検討会」	
2月	勉強会（感染予防にて中止）	社会福祉保健説明会（WEB 講座 1名）
3月	勉強会（感染予防にて中止）	

3 小規模多機能型居宅介護わかくさ

本年度も、新型コロナウイルス感染の影響が続き、ご利用者の望む形での行事は行えなかったが、感染対策を徹底して行いながら少しでも楽しんで活動して頂ける様に、職員を二つのチームに編成し、取り組みを行った。一つは、コロナ禍でも安全に楽しんで頂けるレクリエーションや恒例行事の行い方を考えるチームとし、もう一つは、コロナ化で活動量の減っているご利用者の身体機能維持を考えるチームである。行事としては、例年行っていた花見や初詣等、昨年度は中止したが、本年度は少人数、短時間でドライブスルーとして行い、毎月の誕生会も合唱はせず、代わりにバースデイソングを流しながらご利用者の生まれた日や年にどんな事が起こったかを職員が話す形に変更した。集団で楽しむレクリエーションは行えなかったが、ご利用者が個々に作成したパーツを最後には一つの作品にし、毎月、玄関ホールに飾る等、個々の活動が皆で共感出来る様に工夫しコロナ化で思う様にコミュニケーションが取れない中でも楽しみややりがいに繋がる活動が出来たと感じる。ただ、ご利用者からは、「外食に行きたい。」「買い物に行き

たい。」といった要望が多くあり、来年度は、外出をしなくても満足度を得られる方法をチームで考え取り組みたい。身体機能維持時に関しても、ご利用者個々のケアプランに沿って体を動かす計画を立て、職員がマンツーマンで対応し、テレビを観ながらのリズム体操に、ご利用者全員で参加し体を動かす事が日課となっている。コロナ禍以前より活動量は多くなったと感じており、今後も継続していきたい。感染防止対策の為、センター内への外部者の立ち入り禁止が続いており、毎月の居酒屋や運営推進会議が行えていない。リモート会議等の環境整備もメンバーからは難しいとの意見もあり行えなかった。今後は、文章での近況報告や意見の収集を行い、少しでも地域との関係性を繋げていきたいと考えている。本年度を振り返ると、職員の研修参加が殆ど出来ていない。研修の情報が少なかった事もあるが、コロナ禍を理由に参加する努力を怠っていたと反省している。来年度は、職員個々の研修計画に沿って参加出来る様に努めたい。経営的にはコロナ禍の影響は殆どなかったと思うが、ご利用者の急逝が相次ぎ、急な登録解除が多くあった為、準備が不十分であり、新規登録までの空き日数が多くなってしまった。待機者の数は安定している為、今後は優先順位を確定し、いつ空きが出来ても直ぐに利用に繋がられる様、家族や関係機関との密な連絡を行い準備しておく。また、引き続き医療相談室や他事業所等の連携を密に行い、来年度も安定した経営が継続出来るよう努めたい。

【行事等】

4月	ドライブスルー花見（車内換気を行い蜜を避け3名づつドライブ） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	10月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
5月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	11月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
6月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 防災訓練（自主訓練） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	12月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 クリスマス会（各事業所にて感染対策を行いながら催す） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
7月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 納涼祭（中止） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	1月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
8月	新型コロナウイルス感染予防にて行	2月	新型コロナウイルス感染予防にて

	事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）		行事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
9月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 敬老会（各事業所にて感染対策を行いながら催す） 防災訓練（自主訓練） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	3月	新型コロナウイルス感染予防にて行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）

【介護度別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	5	6	6	5	5	4	5	6	5	6	5	5	63
要介護2	9	9	8	9	9	9	9	10	10	9	7	7	105
要介護3	6	7	7	7	7	7	7	6	7	7	10	10	88
要介護4	5	5	5	5	5	4	4	5	5	5	5	6	59
要介護5	3	3	3	3	3	3	4	3	2	2	2	2	33
計	28	30	29	29	29	27	29	30	29	29	29	30	348
平均介護度	2.71	2.66	2.68	2.72	2.72	2.74	2.75	2.63	2.62	2.58	2.72	2.76	2.69

【機能別延利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	433	469	455	453	443	452	413	373	430	423	303	434	5,081
訪問	710	876	749	877	794	672	782	874	890	818	808	903	9,753
宿泊	101	108	111	112	108	124	95	74	109	138	89	121	1,290
計	1,244	1,453	1,315	1,442	1,345	1,248	1,290	1,321	1,429	1,379	1,200	1,458	16,124

【研修報告（内部・外部）】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	リモート勉強会（介護保険制度について）	
5月	リモート勉強会（地域包括支援センターについて） リモート伝達研修	
6月	新規採用者研修（2名） リモート勉強会（感染症・コロナウイルス感染シミュレーション）	
7月	リモート勉強会（レクリエーションを考える） リモート伝達研修	
8月	リモート勉強会（コロナウイルス感染拡大にて中止）	

9月	リモート勉強会（コロナウイルス感染拡大にて中止）	
10月	新規採用者研修（3名） リモート勉強会（コロナウイルス感染拡大にて中止）	老施協研修（ウェブ講座1名）
11月	リモート勉強会（産業医による社会福祉施設における安全衛生管理について）	
12月	リモート勉強会（ハラスメントについて） リモート伝達研修	
1月	新規採用者研修（1名） リモート勉強会（介護事故事例検討会）	
2月	リモート勉強会（コロナウイルス感染拡大にて中止）	社会福祉保険説明会（ウェブ講座1名）
3月	リモート勉強会（コロナウイルス感染拡大にて中止）	

4 くつろぎの家訪問入浴サービス

令和3年度における新規利用者は15名。年間通じて新規依頼は多数あったが、ご利用者の他サービスとの調整困難、住居スペース確認の際、浴槽の搬入・設置困難な為、利用に繋げる事が出来なかったご利用者も多数おられた。が在宅生活を

しかし、そんな中でも今年初めて若年性の重度障害者の受け入れを行った。サービス利用にあたり関係機関からの情報提供を基に職員間でリスクマネジメントを繰り返し行い様々な場面を想定した事でスムーズに援助を行う事が出来たことに関しては、今後の受け入れ拡充へ繋がる事になると思われる。

また、ご利用者の疾患、身体状況等の理由により隔週での入浴を希望される方が増加傾向にあり訪問ルート兼ね合いから空き枠があっても受け入れが困難な状況も数件あった。

今後、隔週利用者の利用曜日の変更をかけた訪問ルートに支障が出ないように調整を行い、空き枠の受け入れの自由度を上げるよう工夫していく。稼働に関しては長期入院等の空き枠の調整が上手く出来ずに前年度と比較して大きく低迷してしまった事から、来年度は長期入院者枠をどのように活用していくかを考えると共に関係機関への情報発信を行っていき稼働率の向上を目指す。

	延べ人数	実人数	一日平均	稼働日数
4月	59	15	2.8	21
5月	57	18	3.2	18
6月	75	19	3.4	22
7月	74	19	3.7	20
8月	70	17	3.3	21
9月	51	18	3.4	15

10月	75	18	3.4	21
11月	78	20	3.9	20
12月	85	21	4	21
1月	76	18	4	19
2月	74	18	4.1	18
3月	81	20	3.7	22
合計	855	221	3.6	238

5 高知市在宅介護支援センター あさくら（居宅介護支援事業所）

（1）心豊かな生活の表現

令和3年度も新型コロナウイルスの影響あり、利用している介護サービスが停止するご利用者も数名いたが、その都度、代替えのサービスを提供出来ています。また介護者が感染したケースに関してはご利用者が濃厚接触者になる事もあり、介護サービスが使えなくなり、代替えサービスが困難なケースもありました。

介護支援専門員としての質の向上

事業所内での週1回の定例会は実施出来ています。困難なケースに関しては一人で悩まずに事業所内の介護支援専門員全員でケアマネジメントの方向性を確認出来ていました。質の向上の研修ではコロナ禍という事もあり、開催される研修はごくわずかであり、リモートでの参加では積極的に参加する事が出来た。

（2）関係機関との連携強化等

今年度より自法人に朝倉地域包括支援センターを設置している事もあり、ご利用者の獲得を積極的に実施する事が出来ました。お互いの事業所にとって助かる部分もあり、連携が取れていたと思われまます。地域との繋がりではコロナ禍の事もあり、地域との交流が出来る様々な行事も相次いで中止となり、うまく交流が図れない。というのが強く印象に残ってしまった一年でした。

医療機関との連携の部分では退院するまで本人に会う事が出来ず、サービスの調整がスムーズに出来ない事もあったが、リモートによる面会や事前病院 PT による家屋調査での申し送りを細かく報告して下さる事で連携が取れる事が出来た。

（3）新規利用者様の確保・相談援助

ご利用者の確保に関しては今年度より朝倉地域包括支援センターの設置に伴い、連携を取る事が出来ました。月平均で約3件～4件程の新規利用者を支援させて頂く事が出来ています。令和3年度では久しぶりに病院等の医療関係からの新規依頼もあり、受け付ける事が出来た所が良かったと思う。

【介護度別請求件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	62	59	57	50	46	46	41	37	35	30	27	25	515
要介護2	36	35	33	30	27	26	26	24	20	17	17	16	307
要介護3	29	27	27	26	24	23	20	20	19	16	14	12	257
要介護4	18	18	16	16	15	14	12	10	9	9	9	8	154
要介護5	9	9	9	8	7	7	7	7	7	5	5	4	84
計	154	148	142	130	119	116	106	98	90	77	72	65	1,317
平均介護度	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.2	2.3	2.2	2.2
予防・総合	17	18	17	14	17	15	16	16	18	21	20	21	210
合計	171	166	159	144	136	131	122	114	108	98	92	86	1,527

【職員研修等】

	内部研修	外部研修
4月	勉強会「介護保険制度について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名)
5月	勉強会 「地域包括支援センターについて」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名) 介護支援専門員定期総会(1名) 介護予防支援従事者研修会(1名)
6月	伝達研修 勉強会「食中毒・コロナウイルス感染シミュレーション」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名)
7月	伝達研修 勉強会「レクリエーションを考える」	コロナウイルス感染拡大により中止
8月	※コロナウイルス感染拡大により中止	ケアマネジメント研修会 ZOOM(4名) 防災研修会 ZOOM(4名)
9月	※コロナウイルス感染拡大により中止	主任ケアマネ研修(1名)
10月	法人研修 「季節感染症について」	高齢者虐待対応に関する職員研修(1名) 主任ケアマネ研修(1名)
11月	伝達研修 勉強会「産業医について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名)
12月	伝達研修 勉強会「ハラスメント」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名) ケアマネジメント基礎研修 ZOOM(1名)
1月	伝達研修 勉強会「リスクマネジメント事例検討」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名)
2月	※コロナウイルス感染拡大により中止	ケアマネジメント研修(1名) ZOOM 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修(1名) 西部地域医療カンファレンス ZOOM(3名)
3月	※コロナウイルス感染拡大により中止	

6 高知市朝倉地域包括支援センター

令和3年2月1日から高知市朝倉地域包括支援センター開設後1年経過したが、コロナウイルス感染症蔓延防止対策を取りながらの事業運営となり、地域への浸透や地域活動の展開が困難であった。

そうした状況下、今後の地域活動へとつなげていく下準備として個別のケース対応を中心として活動し、地域・関係機関のネットワーク構築や機能強化に努めた。

(1) 総合相談・支援

地域住民の身近な相談窓口として、適切な保健・医療・福祉サービスや制度へのつなぎ支援を行うべく、相談機関としての機能強化に努めている。

令和3年度の相談実人数1365人。対応延べ件数8323件。高齢者支援センター出張所の際は、実人数850人強、対応延べ件数が約2300件程度であったのが、飛躍的に伸びている。対応する職員の人数が増えたこと、西部地域高齢者支援センターが対応していた件を直接地域包括支援センターが対応することとなったための結果であると考えられる。

(2) 権利擁護事業

令和3年度虐待疑いの通報受理・対応件数が、8件。その内、虐待認定された件数6件。通報受理後は基幹型地域包括支援センターに報告、相談しつつ規定の方法に従い対応。対応内容は、所定の権利擁護記録へ記載。成年後見サポートセンター支援者会議等の研修に参加し、権利擁護支援のスキルアップに努めている。

地域住民に向けた虐待予防啓発活動が十分できなかったことが課題。

(3) 包括的、継続的ケアマネジメント

ケアマネ支援件数、延べ318件。入退院相談件数、延べ628件。個別ケース支援を通じ介護支援専門員や医療機関との連携や協力体制強化に努めている。

(4) 地域ケア会議

地域ケア会議は4月、12月に開催。コロナウイルス蔓延のため会の開催中止となり、予定していた2か月に1回の定期開催ができなかったが、地域課題や専門職・多職種からの多様な意見をいただける機会を持つことができた。

(5) 介護予防ケアマネジメント事業

基幹型地域包括支援センターや居宅介護支援専門員協議会と連携し、介護予防ケアマネジメント力の向上により、高齢者が住み慣れた地域で望む生活ができるよう支援に努めている。

(6) 認知症高齢者支援、生活支援体制整備事業

認知症初期集中支援チーム員として西部ブロックの会議に出席。事例は4件提出。

認知症啓発活動は、合計 3 回。コロナ禍のため、地域住民に集合してもらっての啓発活動が例年に比べできにくかった。

生活支援体制整備事業としては、朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会を第二層協議体の活動としての取り組みと捉え、地域課題の把握～課題解決への取り組み方法を住民と共に検討している。また、昨年度は朝倉第二小学校区、本年度は朝倉小学校区にて地域診断カルテの作成に関係機関と共に取り組んだ。その後、防災の視点からのマップづくりや個別カルテ作成の取り組みを高知市社会福祉協議会、地域防災推進課と実施する話し合いを進めた。しかし、コロナ禍にて住民の集合ができず、実際の活動展開が難しかった。

7 高齢者住宅等安心確保事業（若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

【活動内容・件数】

生活指導 ・相談	安否の確認	一時的な 家事援助	緊急時の 対応	関係機関 との連絡	その他
19 件	1,328 件	9 件	23 件	18 件	179 件

【緊急通報・・・誤作動（4件）】

その他	1 件	自宅玄関前で転倒し立ち上がれないと通報あり、ケガは無く様子を見る事となる。
誤作動	4 件	緊急通報があつたが、全て空き部屋からの通報。

緊急通報システムの誤報・誤作動があり、令和 4 年 2 月に新しく緊急通報システム導入の予定であったが、令和 4 年 5 月に変更となる。

Ⅲ 児童福祉関連事業

[1] うららか保育園 関連事業

1 うららか保育園

(1) 総括

令和3年度、新入園児8名を迎え、定員130名に対し園児数114名でスタートした。年度途中の入退園がある中、3月末には125名が在籍し20名の卒園児を小学校に送り出した。

年度途中の0歳児入園を見込み保育士を配置していたため、入園希望者をすべて受け入れることができた。園児数減については、家庭の引っ越しや保護者の勤務地の異動等により、5家庭（園児7名）が転園した。

今年度も、新型コロナウイルス感染防止に努めながらの保育であった。行事については、時間の短縮、乳児組・幼児組分散しての開催、参観者への感染防止対策の徹底と参観人数の制限により実施した。中でも、室内での行事となる参観日は中止し、1年の保育の集大成となる発表会は、まん延防止等重点措置が発令されたため、無観客で実施した。発表会は、保護者が楽しみにしている行事の一つであることから、収録データを無償で配布し家庭で鑑賞してもらうようにした。

保護者への保育公開や地域との交流を行うことができなかったが、ウイルスの変異により10歳未満の子供の感染が増え、乳幼児施設のクラスター発生等により休園が相次ぐ中、本園は休園することなく保育を継続できた。

児童クラブでも、帰会時の手洗い、手指の消毒の励行を呼びかけるとともに、昼食やおやつのおやつなど、感染防止を徹底し、仕事に従事している家庭の児童を預り、子ども達の居場所作りに努めた。

(2) 活動報告

① 基本方針、保育目標、保育への心がまえを念頭に置き、「保育」「食育」「発育」の3つの育ちに努めた。毎日の朝ミーティング、月2回の報連相の会（職員会）、乳児・幼児部会により、多職種連携のもと、子ども一人一人の特性や背景などの情報を共有し保育に反映した。

ア. 保育 月齢、年齢に応じた環境構成をこころがけ、遊びや体験を通して健康なからだづくりと情緒の安定をはかるよう努めた。四季折々の行事をはじめ、誕生会、お点前（年長5歳児）、英語で遊ぼう（幼児組）、学研教室のまなびタイム（年中・年長組）などを計画し実施した。保護者には、「園だより」「クラスだより」を月1回配布し、保育の様子や子どもたちの姿等を伝えた。

イ. 食育 献立の栄養のバランスや咀嚼力を高める食材の活用、素材の味を生かした食事の提供、安全性や品質などの検討を毎月行った。アレルギー除去対象児

に対しては、主治医の指示書に基づき、看護師、調理員、保育士が密に連携し誤食防止に努めた。また、幼児組において、調理員が子どもの食の関心を高めるとともに、食物の恵みに感謝する心を育むよう食育教室を実施しに。

ウ．発育 身体測定（毎月）、内科・歯科健診（年2回）、視力検査（4、5歳児年1回）を実施、家庭に結果を報告した。口腔衛生については、4歳児、5歳児クラスで昼食後にフッ化物洗口を行い齲歯防止に努めた。感染防止のための環境整備、職員への情報提供を行うとともに、園独自の「保健だより」を発行し、園の保健衛生に関する情報を発信した。保育中に発熱や嘔吐・下痢などの症状がみられた場合、児を体調不良対応室で看護師が保護者の迎えまで看護し、感染拡大防止に努めた。

② リスクマネジメントについては、「保育中の怪我や事故・友だちとのトラブル」「睡眠中の事故」「災害への備え」の3点に重点を置き取り組んだ。

ア．保育中の怪我や事故・友だちとのトラブル

遊具等からの転落、転倒による擦過傷・打撲、友だちとのトラブルによる噛みつき、ひっかき等があった。保育室内や屋外の危険個所や死角を確認したうえ、あそび中に必ず保育士が配置するように努めた。しかし、子どもの予測できない行動や友だちとのトラブル対応により、十分に目配り、気配りできない状況下で怪我、事故が発生することがあった。保育中の怪我や友だちとのトラブル等については、事の大小にかかわらず保護者に報告、謝罪した。

イ．睡眠中の事故

乳幼児突然死症候群（SIDS）に対して、15分毎睡眠中の呼吸、体位、顔の向きを確認・記録し事故防止に努めた。

ウ．災害への備え

突然の火災や地震・台風などの自然災害に備え、月1回、避難訓練の実施や備蓄の確認及び補充、保護者向けに災害伝言ダイヤル171体験の実施を行った。また、交通安全については、警察の協力のもと、幼児クラスを中心に交通安全教室を実施した。しかし、コロナウイルス感染防止のため、保護者を含めた災害発生時の緊急連絡カードに基づく園児の引き渡し訓練、防犯訓練は実施を見送った。

③ 職員の資質向上のための研修は、今年度もweb研修のスタイルが主流であった。これまでは、会場への移動時間等含め、保育が手薄にならないよう単数での参加であったが、web研修を逆手に取り、内容に応じて職員を研修に参加させ、個々のスキルアップをはかった。園内公開保育では、意見交換や討議により、個々の視点の違いから学びを深めたり、情報を共有・共感することにより保育のあり方を検討することができた。

④ 実習は、保育実習1名、小児看護実習12名、職場体験実習1名を、健康観察、感染予防対策を綿密に行ったうえで受け入れた。

- ⑤ 保護者会活動は、例年通りの実施が困難な状況ではあったが、保護者の協力により規模の縮小、参加人数の制限等をはかり実施できた。

【園児入園状況と園児数 (定員 130名)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	3	5	7	8	9	12	14	14	14	15	15
1歳児	15	15	15	16	16	16	16	17	17	18	18	18
2歳児	21	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22
3歳児	20	20	20	19	18	17	17	17	17	18	18	18
4歳児	34	34	34	33	33	33	33	33	33	33	33	33
5歳児	21	21	21	21	21	20	20	20	20	20	20	20
合計	114	114	116	117	117	117	120	123	123	125	125	125

【保育日数】

土曜日(7:30~19:00)を土曜登園として実施しており、実質の休日は日曜・祝日および年末年始(12/30~1/3)である。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	26	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	294

【体験学習・保育実習等受け入れ状況】

学 校 名	期 間	人数
高知中央高等学校衛生看護専攻科 小児看護実習	6月7日~7月2日	12名
高知県立国際中学校 ボランティア体験	8月3日~8月6日	6名
高知学園短期大学 保育実習	9月6日~9月17日	1名
高知大学教育学部附属特別支援学校高等部 現場実習	11月1日~11月19日	1名

【主な行事報告】

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4月1日(木)	入園式・始園式	12月24日(金)	クリスマス会
6月22日(火)	プール開き 神事	1月11日(火)	年長 交通安全教室
7月21日(水)	年長 野外活動(仁淀川)	1月28日(金)	マラソン集会
7月31日(土)	夕涼み会	2月3日(木)	節分集会
8月2日(月)	自由参観週間	3月8日(火)	第20回発表会収録
~6日(金)		・10日(木)	
10月9日(土)	第20回運動会	3月18日(金)	お別れ遠足
11月5日(金)	秋の遠足	3月25日(金)	修了式
12月10日(金)	お餅つき	3月26日(土)	第20回卒園式
12月14日(火)	交通安全教室		

毎月－誕生会、避難訓練、お点前（年長）、英語で遊ぼう（幼児組）、まなびタイム（年中・年長）

【保健関係】

内 容	実 施 日
尿検査	幼児組 4月20日（火）
内科健診	春季 5月10日（月）、17日（月） 秋季 10月18日（月）、25日（月）
歯科健診	春季 6月16日（水） 秋季 11月10日（水）
視力検査	年中児－10月26日（火）、11月2日（火）、11月8日（月） 年長児－11月15日（月）

毎月－身体測定

2 うららか保育園 特別事業関連

子育て家庭および就労の保護者のニーズに応じ、「延長保育（19時まで）」「一時保育」「子育て支援センター」「病児・病後児保育」「体調不良児対応型保育」を実施し、育児の不安解消や負担軽減につとめ親支援を行った。

一時保育は、保育士の不足により令和元年7月より休止していたが、今年度より再開し、保護者の育児による精神的・肉体的疲労の解消、急病や断続的・短期的就労等の理由により一時的に保育が必要な未入园児を預かった。

（1）延長保育事業（利用時間18時30分から19時）

補助金対象外で利用料金のみで集金収益で、月平均15名ほどの利用があった。

（2）一時保育（クローバー）

年度当初、一時保育再会の告知が不十分で、登録・利用が少なかったが、ちらしの配布やポスター掲示、市の情報提供により徐々に登録・利用者が増えた。

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用延人数	30	18	32	25	41	43	47	45	49	56	50	58
平均利用数	3	2	3	2	3	3	3	3	3	4	4	3

（3）子育て支援センター「うららかなかよし広場」

新型コロナウイルス感染対策として、来所時の検温及び体調確認、予約制（午前・午後とも4組まで）で開所した。しかし、8月27日～9月12日、2月12日～3月6日の期間、まん延防止等重点措置が発令され閉所となった。その間は、子育て世帯の方の交流の場を維持するよう、ZoomやSNSによりオンラインで情報の発信や悩み相談を行った。閉所期間中、Zoomで9組と交流をはかった。

育児講座は、助産婦、保健師、栄養士の外部講師を招いた相談会や看護職員による毎月の身体測定、救急法についての勉強会等、子どもの健康や発達に関する内容から、アクセサリ作りや屋外活動など、保護者の興味的な内容を計画して行った。

講座は、保護者に人気があり、2部制にするなど多くの方が利用できるように工夫したが、定員を超える希望があった。

なかよし広場の様子は、日々InstagramにあげてPR活動を行った。現在のフォロワー数は165人となっている。今後、活動内容のアップ方法を工夫し、フォロワー数、来所者数を増やしていきたい。

【育児講座等の実施】

月	内 容	
4月	離乳食教室（栄養士）	フォトフレームづくり
5月	育児相談（助産師）	英語リトミック
6月	デコスイーツマグネット作り	スクラップブック作り
7月	グリーン寄せ植え	は・は・はの話し（歯科衛生士）
8月	育児相談会（保健師）	トートバッグ作り
10月	育児相談会（助産師）	プチ運動会
11月	秋の遠足（芋堀り）	クリスマスリース作り
12月	離乳食教室（栄養士）	しめ縄作り
1月	育児相談（保健師）	マスクストラップ作り
2月	歯固め作り	
3月	救急法	パパママが楽しく話かける英会話

・毎月の行事ーエアランド・身体測定

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開放日数	21	18	22	20	18	12	21	20	19	18	8	18	215
参加延組数	103	59	87	86	69	58	116	68	68	57	18	58	847

（４）病児、病後児保育事業（ラベンダー）

病時保育室の利用定員は3名であるが、利用児の病名と異なる場合は利用できない。そのため、病名が違うことによりお断りする場合が往々にしてあった。

コロナ禍により、日常の中で感染防止を講じていることもあり、利用者は昨年同様少なかった。疾患別では、上気道炎、咽頭炎といった風邪症候群、感染性胃腸炎による利用が季節を問わず多かった。

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用延人数	13	17	28	22	17	9	10	11	18	9	14	14	182

(5) 体調不良児対応型病児保育事業（スイトピー）

保育中の急な発熱や体調不良による利用が主となる。保護者の就労によりすぐに迎えに来る事が出来ない園児の観察、安静の為の対応をするケースが多かった。

他、活動中の怪我による受診の同行が今年は2件あった。受診に至った経過と受診時の様子を保護者に伝え、回復に至るまでフォローした。

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用 延人数	19	25	34	17	14	6	2	10	15	8	6	18	174

3 放課後児童クラブ

月1回定例会を持ち、各クラブの様子や、気になる児のかかわり方などを報告・相談し、児童とのかかわり方や児童クラブの運営の在り方を確認するようにした。入学・進級の時期は、友だちとのトラブル、ルールから外れた行動をとる児童がいたが、同じ姿勢で指導を継続することで、ルールを守って過ごすことができている。

新型コロナウイルス感染防止対策、熱中症予防や救急法について講習等を行い、児の安全、健康管理に努めた。

春野西小学校児童クラブは、特別支援の児童が利用しており、加配指導員を配置（1名）している。発達障害や癲癇の子どもの対応に支援員が苦慮することがあったため、今後、障害の理解を深めると共に、子ども一人一人の個性を尊重するかかわりができるよう、支援員のスキルアップに努めたい。

【春野東小学校放課後児童クラブ 利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	24	20	21	21	22	21	21	20	19	23
在籍者数	55	56	56	60	60	57	53	52	51	48	46	43
出席 延人数	971	961	1195	1035	744	1100	1049	973	940	779	747	782

【春野西小学校放課後児童クラブ 利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	24	20	21	21	22	21	21	20	19	23
在籍者数	34	38	39	38	39	37	33	32	32	32	31	31
出席 延人数	609	654	811	649	474	666	657	624	595	516	572	590

【春野東小学校南ヶ丘第一放課後児童クラブ 利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
--	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

開所日数	21	19	24	20	21	21	22	21	21	20	19	23
在籍者数	24	23	23	23	23	22	20	20	20	20	20	20
出席 延人数	396	349	425	353	300	307	349	313	309	278	322	329

【春野東小学校南ヶ丘第二放課後児童クラブ 利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	19	24	20	21	21	22	21	21	20	19	23
在籍者数	19	19	19	19	19	16	16	15	15	15	15	14
出席 延人数	340	290	370	310	294	273	282	238	250	236	241	252

4 研修参加状況

月	研 修 名 (内容)	主催者	参加職種	参加人数
4月	第一回乳児保育研修 (Zoom)	高知市	保育士・准看護師 調理員	3
	体調不良児対応型病児保育事業 担当看護師オリエンテーション	高知市	看護師	1
	看護師等研修会「視力検査について」 (Zoom)	高知市	園長・看護師	2
	特別支援担当保育士等研修会	高知市	園長・保育士	2
	ネットワークを広げよう 親育ち支援担 当の在り方	高知県	保育士	1
5月	所長・園長研修 ステージⅠ-1	高知県	園長	1
6月	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	1
	防災対策研修	高知市	児童クラブ支援員	1
	放課後児童クラブ 特別支援担当者研修	高知市	児童クラブ支援員	1
	保育所食育研修会 (Zoom)	高知市	栄養士	1
7月	保育者基礎研修Ⅱ期-Ⅰ	高知県	保育士	1
	保育技術専門講座Ⅰ 「特別支援教育の視点に基づいた保育」	高知県	保育士	1
	第一回主任部会 (Zoom)	保育士会	主任保育士	1
8月	保育者基礎研修Ⅱ期-Ⅱ	高知県	保育士	1
	所長・園長研修 ステージⅠ-2	高知県	園長	1
	親育ち支援 地域別交流会	高知市	保育士	1
	新型コロナウイルス感染症について (DVD)	園内	全職員	32
9月	特別支援担当保育士研修会 (Zoom)	高知市	保育士	1
	第一回園長部会 (Zoom)	保育士会	園長	1
	第二回乳児保育研修 (Zoom)	高知市	保育士・看護師	7
	園評価に関する研修Ⅱ (Zoom)	高知県	園長・主任保育士	2
	保育者基礎研修Ⅱ期-Ⅲ	高知県	保育士	1

	吐物処理方法	園内	保育・看護・調理にかかわる職員	28
10月	保育施設における感染症対策研修会 (Zoom)	高知市	看護師	1
	第二回放課後児童クラブ 特別支援担当者研修	高知市	児童クラブ支援員	1
11月	保育職場の業務改善研修 (Zoom)	保育士会	園長	1
	保育者基礎研修Ⅱ期-Ⅳ	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修「食育・アレルギー対応」(オンデマンド)	高知県	調理員	1
	第二回主任部会 (Zoom)	保育士会	主任保育士	1
	アレルギー対応研修 (Zoom)	高知市	准看護師	1
	「児童虐待」研修会 (Zoom)	高知市	保育士	1
	所長・園長研修 ステージⅠ-3	高知県	園長	1
	子育て支援員フォローアップ研修「発達が気になる子どもの保護者サポート」	高知市	子育て支援員	1
	研修「子どもたちも先生も守る勉強会」及び第二回園長部会	保育士会	園長・主任保育士 保育士	3
	保育部会	保育士会	保育士	1
	保育技術専門講座Ⅱ「音楽表現/乳児保育と環境」	高知県	保育士	1
地域子育て支援センター職員研修会	高知市	保育士	1	
応急手当	園内	児童クラブ支援員	11	
12月	初任保育所長研修会 (Zoom)	厚労省	園長	1
	親育ち支援講座	高知市	保育士	1
	キャリアアップ研修「食育・アレルギー対応」	高知県	調理員	1
1月	第三回主任部会	保育士会	主任保育士	1
	地域子育て支援センター職員研修会・交流会	高知市	保育士 子育て支援員	2

IV 公益事業

[1] 介護福祉士養成施設 関連事業

1 平成福祉専門学校

前年度の介護福祉士国家試験合格率は 75.7%であった反省を踏まえ、令和 3 年度は 100%の合格を目指し特別講座を実施した。具体的には 12 月中旬から 1 月の試験目前までの期間、学生の希望者を募り学習計画の立案、学校専任教員以外の講師にも協力をしていただき計画に沿って進めた。学習内容としては、受験対象学生の学習能力の分析を行い今年度の模擬試験の中で全国的に正解率が半数を超えている問題に着目した。

理由としては、集中的な学習により結果に繋がると判断したと同時に、理解しなければならない知識と考えると重点的に復習を行った。また、苦手意識もあり習得が難しい「医療」や「制度」に関する分野については、過去問や色々な出版社から出ている予想問題集を使っての定期的な学内での模擬試験を行った結果を分析して、全体として点が取れなかった問題に着目し繰り返し学習を行った。開始当初は参加者が 10 人にも満たなかったが、日を重ねるごとに増加していき 1 月に入る頃には 2 年生 29 人の内 20 人を超える学生が連日参加するようになり、学生達の方から「教えてほしい」という言葉が多々聞かれ、問題を口ずさみながら廊下を歩いている姿も見られるようになった。本年度の介護福祉士国家試験受験率は 100% (29 人中/29 人)、合格率は 89.6% (26 人合格) であった。100%の合格を目指して取り組んできたが、目標を達成することはできなかった。しかし、厚生労働省の報告による全国の介護福祉士養成施設の合格率は 65.3%と比較すると努力が結果に繋がることが実感することができた。介護福祉士資格取得のためには、長期的な学習計画をしっかりと立てることと、日々の勉強に取り組む学生としての姿勢や、自分の将来につながる絶対に取得したい資格と認識することができる学習体制が必要と感じる。来年こそは、受験生全員の合格に向けて取り組んでいきたい。

学習面では、コロナウイルス感染症による昨年度の経験をふまえて、授業の進度を早めに計画をした。そのことにより状況に応じて課題学習や Web を活用したが、ほぼ対面での学習が実施できた。実習については、感染状況を鑑みて 1 年生の第 1 段階実習は校内で実施したが、それ以外の学習については施設内実習をおこなうことができた。2 年生の 5 月 31 日～7 月 2 日に予定した 3 段階実習の際には、開始直前に県から特別警戒の発令があった影響で、実習生受入れについて延期もあり、実習に参加できなかった学生や、途中から開始となった学生もいたことから、学習状況にばらつきが発生した。その後、実習依頼先

の協力もあり時間を調整して、10月末には全員が実習を終えることができた。

全国的に介護福祉士養成校の入学者の減少は深刻な問題である。本校は全国と比較すると、学生数は多いが年々減少傾向にある。少子高齢化に伴う高校生数の減少が今後も加速されることから、学生募集はますます厳しくなると危惧する。今までと同様に、行政や関連機関との連携をより一層強固にし、介護の魅力を発信すると共に、介護福祉士養成校での学びの重要性を広めていきたい。

(1) 教務課

昨年の経験をふまえて授業計画を早めにとったので、社会状況が変わっても何とか対応できたと感じる。今後も、通常の計画を参考にしながらも、できる時に集中して学習をおこなうように授業の計画を立てて、教員間、他部署との連携をとりながら急な変更が迫られた時にも対応ができる体制をとる。

学習指導面では、教科間の連携を図ると共に、感染症を意識しながら、学生が主体的に学習できるよう努めた。知識の習得に見られる個人差に対しては、個別指導も早い段階から実施している。

国家試験への対策として、時間割上に「国家試験対策」の時間を設定し、定期的に模擬試験（外部委託を含む）を実施した。年末から試験直前の期間は、より細かい学習計画を立て専任教員や外部講師による特別講座を実施。こまめに試験を実施し評価を繰り返して、苦手分野（問題）の学習を集中して実施した。

介護福祉実習関係では、「実習施設打合せ会」を通して、また必要に応じて実習指導者との情報の共有、連絡、調整に努めた。依頼する実習先は、学生数の減少や移動手段の確保、また地理的条件の問題から特定の施設に偏る傾向がある。

校友会活動は、現在、現実的に停止状態にある。卒業生と在校生との交流や各種イベントの協働開催などの実施に向けて、組織体制を見直す。なお、本校は、卒業生の来校が頻繁にある。卒業生が母校に来やすい環境を維持し、情報交換に努めたい。

(2) 学生課

生活指導においては、学生の特性を踏まえた個別指導を、教員間の情報共有を図り実施した。必要に応じて、家族を交え面談も行った。

交通マナーにおいて、事故はないが、2月末に苦情があった。交通マナー順守が習慣化できるよう指導を継続する必要がある。

校内清掃は、感染症に配慮して学年を隔てた縦割りグループを中止し、学年ごとで実施している。

学生の健康管理については、学校保健安全法に基づき健康診断等を実施した。また、介護福祉実習時の感染予防として、便検査、インフルエンザ予防接種、NEAR検査を実施した。

学生自治会は、感染症の影響でほとんど計画・実施できなかった。社会状況と照らし合わせながら、令和4年度は先輩から受け継いできた活動の計画・実施もしていきたい。

【令和3年度 学生数】

月 学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	23	23	23	23	23	20	20	20	20	20	20	20
2年生	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29

【卒業生就職状況】

種別	人数
社会福祉法人	20
医療法人	2
組合立	1
有限会社	2
県外（社会福祉法人）	2
未就職	1
留年	1
計	29

（3）業務推進課

実践目標

- ・学生募集の成功
- ・体験入学参加者数の増加
- ・福祉教育及び説明会のプレゼン能力の向上

学生募集としては、40名定員に対して25名の入学生を迎えた。（充足率63%）

高校には、高知県内を中心に延べ154校訪問して、体験入学への参加周知や奨学金等の周知を行った。訪問時には、国家資格取得方法の改正や国家資格の移行期間における措置についてなどの広報活動に加えて、説明会や体験入学へ参加してくれた高校生の様子や質問のあった不安なことなど、個別に対応した内容についても報告を行った。

高知県専修学校各種学校連合会の説明会や説明会業者での説明会は、高知県内の高等学校や高知県内のホテル等で合計18回実施し、延べ45名の高校生に説明を行った。

福祉教育授業については、高知県内6校において述べ10回実施した。

目標に対する取り組みとして、令和2年度から新設された給付型奨学金制度の対応は希望する学生や保護者に対して個別の対応ができた。学生の学費面は充実しているため、進学には繋がりやすくなっているはずだが、進学者の増加に結びついていない。その背景には子供の進路に関して保護者の意見が大きく影響しており、介護職よりも看護やリハビリ等の医療職を選択する傾向が伺える。そこで、体験入学や説明会等で保護者に会う機会があれば、積極的に保護者への進学サポートにも力を入れている。

もう一つの取り組みとして、広告やSNSでの周知等Webでの活動を強化した。公式LINEアカウントは登録者数が増加し、直接LINEでの相談や体験入学参加の申込が増加した。最近では保護者の方のLINE登録も増え、奨学金や進学費用の事など個別の相談も増えた。また、学生の力も借りてInstagramも積極的に更新し、登録者数は増加傾向にあり、県内の高校もフォローしてくれている。

今後、高校生の人口が減少する中、それに伴い介護福祉士を希望する高校生が減少することが予想される現状において、福祉教育及び説明会で会った高校生一人ひとりを大切に、体験入学への誘導、進学へと繋がるようフォローを丁寧に行う。

(4) 総務課

実践目標

- ・学校窓口として来校者への笑顔での対応力を向上させる
- ・予算管理と経費削減の徹底
- ・迅速かつ正確な業務遂行の徹底

授業料については、令和2年度から修学支援新制度が導入され、授業料の減免制度が開始された。それに伴い本人に請求する授業料の金額が違うため、年度初めは苦勞したが、学費や寮費などの納入に関してはスムーズに処理を行うことができた。年度内に全員納入ができています。その他の経費については、年度内の必要なものを検討し、職員全員が意識をもって節約に取り組むことができた。

2 平成福祉専門学校 介護実務者研修

令和3年度は昨年に比べて受講者が微増し、26名が受講して25名が研修を修了した。

3 平成福祉専門学校 介護初任者研修（高校生就職支援事業）

本年度も高知県より委託を受け、本事業を実施した。訪問型研修として春野高校・城山高校の2校と集合型研修として本校にて1校の計3校で実施する。計30名が受講し全員

修了した。

また、この研修を通して本校への進学者は計2名である。介護分野への就職者は少なく進学希望者が増えた。介護の人材確保としての目的は果たしていると思われるが、集合型研修の受講生が減少傾向にあるので、今後は受講生の確保も必要である。